

市原市文化財センター年報

昭和 61 年度



財団法人 市原市文化財センター

序

財団法人 市原市文化財センターは、昭和57年4月1日の設立以来本年度をもちまして満5周年を迎えるに至りました。この間、組織の充実が図られ、事業も軌道に乗り、益々の発展が期待される所となりましたのは、皆様のご支援の賜物と感謝致しております。

昭和61年度の発掘調査は、市原ゴルフ倶楽部増設に伴う奉免上原台遺跡、国分寺台区面整理事業に伴う諏訪台古墳群、西広貝塚、市道改良に伴う今富大道遺跡、大和田遺跡など18件実施され、その結果多くの貴重な成果が得られております。その中で特に、諏訪台古墳群において古墳時代前期とみられる方墳の埋葬施設から中国製とみられる平縁盤龍鏡が検出され、マスコミにも取り上げられるほどの注目を集めました。

現在、文化財をとりまく状況は、開発と保護との調整、発掘調査による記録保存という方法に対する基本的な問題など、極めて複雑かつ困難な状況にあり、行政担当者だけでなく市民レベルでの文化財保護・活用が重要な課題となっております。

当センターでは、これらのことをふまえ、市民の方々に文化財をより一層理解して頂く機会として、遺跡見学会、遺跡発表会、「私たちの考古学教室」などを実施し、又パンフレットとして「私たちの文化財」を発行しております。遺跡見学会につきましては先述の諏訪台古墳群で実施をし、多くの方々のご参加を頂きました。遺跡発表会は、昨年度に引き続き2回目を数え、主要遺跡の調査概要の発表を行い、明治大学教授大塚初重先生から「東国における青銅器の世界と市原」というご講演を頂きました。「私たちの考古学教室」は姉崎地区で、地域に密着したテーマとして姉崎古墳群をとりあげ、遺跡・遺物の解説を行い、共立女子短期大学講師前之園亮一先生に「上海上国造と姉崎神社について」というご講演を頂き、地域に根ざした普及活動の一部と成り得たと思っております。「私たちの文化財」も順調に発行されており、より多くの市民の方々のお手元に届くように努めてゆきたいと考えております。

これからも、発掘調査によって得られた多くの成果をもとに、郷土市原の歴史を研究し、様々な機会を設けて文化財がより身近なものとなるように努めてまいりたいと思っております。

最後に、当センターに対し、常にご指導とご協力を賜っております千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

昭和63年3月31日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 星野 一郎

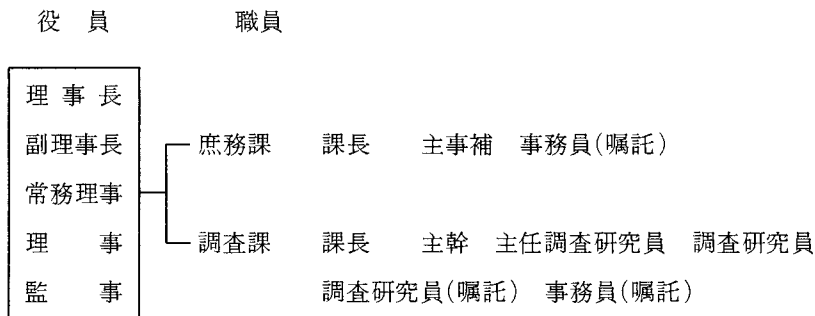
目 次

序	
I 昭和61年度の機構	1
II 昭和61年度事業概要	2
III 昭和61年度調査概要	7
1. 狩豆柵遺跡	9
2. 今富大道遺跡	10
3. 大和田遺跡	13
4. 皿郷田茂遺跡	15
5. 諏訪台古墳群	17
6. 西広貝塚	23
7. 不入窯跡	24
8. 奉免上原台遺跡	28
9. 小草畑棒平遺跡	31
10. 東国吉川中遺跡	33
11. 郡本遺跡	35
12. 白船城跡	36
13. 千草山遺跡	37
14. 軍谷遺跡	38
15. 姉崎宮山遺跡	40
16. 文作遺跡	41
17. 上大堀遺跡	42
IV 昭和61年度受贈図書一覧	43

I 昭和61年度の機構

昭和61年度の市原市文化財センターの機構は、役員・職員で構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、監事をもって構成され、職員は、事務職員6名(内派遣職員1名)・技術職員15名(内派遣職員12名)であり、その組織及び氏名などは下表のとおりである。

(1) 組 織



(2) 役 員

職 名	役 職 名	氏 名	職 名	役 職 名	氏 名
理事長	教育委員会教育長	星 野 一 郎	理 事	市 企 画 部 長	松 崎 良 一
副理事長	教育委員会教育指導部長	横 濱 辰 夫	理 事	市 総 務 部 長	斎 藤 栄 亮
常務理事	専 任	岩 見 一 民	理 事	市 都 市 部 長	地 引 希 壱
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏	理 事	市 総 務 部 財 政 課 長	松 下 隆
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴	監 事	市 会 計 課 長	白 鳥 一 夫
理 事	姉崎神社宮司	海 上 信 久	監 事	教育委員会総務課長	斎 藤 崇 雄

(3) 職 員

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富	調 査 課	調 査 研 究 員	高 橋 康 男
"	主 事 補	大 鐘 光 江	"	調 査 研 究 員	田 所 真
"	事 務 員 (嘱託)	秋 田 晴 美	"	調 査 研 究 員	浅 利 幸 一
"	事 務 員 (嘱託)	石 渡 あ ゆ み	"	調 査 研 究 員	大 村 直
調 査 課	課 長	清 藤 一 順	"	調 査 研 究 員	木 對 和 紀
"	主 幹	石 田 広 美	"	調 査 研 究 員 (嘱託)	鈴 木 英 啓
"	主 幹	山 口 直 樹	"	調 査 研 究 員 (嘱託)	半 田 堅 三
"	主任調査研究員	宮 本 敬 一	"	調 査 研 究 員 (嘱託)	田 中 新 史
"	主任調査研究員	米 田 耕 之 助	"	事 務 員 (嘱託)	高 浦 貞 子
"	調 査 研 究 員	田 中 清 美	"	事 務 員 (嘱託)	長 谷 川 い づ み
"	調 査 研 究 員	近 藤 敏			

II 昭和61年度事業概要

(1) 理事会の開催

- ① 第1回理事会 昭和61年5月28日
 議案第1号 昭和60事業年度事業報告について
 議案第2号 昭和60事業年度歳入歳出決算について
- ② 第2回理事会 昭和61年12月22日
 議案第1号 昭和61事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 昭和61事業年度補正予算(第1号)について
- ③ 第3回理事会 昭和62年3月25日
 議案第1号 昭和61事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 昭和61事業年度補正予算(第2号)について
 議案第3号 昭和61事業年度事業計画について
 議案第4号 昭和61事業年度歳入歳出予算について

(2) 会計監査

昭和61事業年度の会計監査は、昭和62年5月27日財団法人市原市文化財センター事務所において、白鳥一夫、斎藤崇雄両監事により実施された。

(3) 昭和61事業年度受託事業

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺跡		面積・数量	事業内容	契約 年月日	終了 年月日	受託料	
				名称及び種別						清算金額	
1-a	新規	市道166号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	狩豆柵	包蔵地	3,500㎡	確認調査	61.5.30	62.3.31	3,430,031	
1-b						50㎡	本調査	-	-	-	3,430,031
2-a	新規	市道2135号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	今富大道	包蔵地	13,500㎡	確認調査	61.5.1	62.3.31	4,337,408	
2-b						6,100㎡	本調査	61.5.30	62.3.31	23,872,000	28,209,408
3	新規	市道7235号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市	大和田横穴	古墳・横穴	古墳3基 横穴16基 ほか	本調査	61.7.1	62.3.25		23,826,000
4	新規	加茂支所移転改築事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市	血郷田茂	古墳・ 集落跡ほか	4,711㎡	確認調査 本調査	61.5.30	62.3.31		9,891,000
5	継続	園分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(1)	市原市	諏訪台 根田	古墳・ 集落跡	古墳22基 9,000㎡	本調査	61.4.1	62.3.31		93,543,840
6	新規	園分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(2)	市原市	西広貝塚		1,400㎡	本調査				

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺跡		面積・数量	事業内容	契約 年月日	終了 年月日	受託料	
				名称及び種別						清算金額	
7	新規	県営圃場整備に伴う埋蔵文化財調査	千葉県	不入須恵器窯跡		10,000㎡	確認調査	61.11.29	62.3.25	20,000,000	
8-a	継続	市原ゴルフ倶楽部増設に伴う埋蔵文化財調査	サンヨー食品株式会社	古墳・奉免上原台		69,700㎡の70%	確認調査	61.4.1	62.3.31	30,072,397	169,288,397
8-b				包蔵地			本調査	61.7.10	62.3.31	139,216,000	
9	新規	鳳琳カントリー倶楽部建設に伴う埋蔵文化財調査	大日本土木株式会社	包蔵地・塚	小草畑隆平	1,170㎡ 塚1基	確認調査 本調査	61.4.1	62.3.31	7,136,724	
10	新規	土砂採取に伴う埋蔵文化財調査	若菜建設株式会社	包蔵地	東国吉川中	400㎡	本調査 整理 報告書刊行	61.4.10	62.3.31	1,800,000	
11	継続	都市計画道路君塚・小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	上大堀	集落跡	3,000㎡	整理 報告書刊行	61.10.1	62.3.31	3,534,000	
12	継続	南総運動場広場建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	沢	集落跡	1,895㎡	整理	61.10.28	62.3.31	3,577,000	
13	継続	大作地区農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市	下ケ谷台	集落跡	800㎡	整理 報告書刊行	61.9.31	62.3.31	4,140,000	
14	継続	帝京技術科学大学建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	下鈴野	集落跡・古墳など	古墳4基 ほか 32,220㎡	整理 報告書刊行	61.4.1	62.3.31	10,892,000	
15	継続	都市計画道路五井駅東口線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	御産目	古墳	古墳1基 800㎡	整理 報告書刊行	61.4.1	62.3.31	2,999,000	
16	継続	下水処理場関連工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	菊間手	貝塚	3,000㎡	整理 報告書刊行	61.4.1	62.3.31	11,968,000	
17	継続	県道鶴舞牛久線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	千葉県	南富士台	集落跡	350㎡	整理 報告書刊行	61.10.1	62.3.31	1,706,000	
18	継続	姉崎カントリークラブ増設に伴う埋蔵文化財調査	平和農産工業株式会社	外迎山ほか	古墳ほか	34,590㎡	整理 報告書刊行	61.4.1	62.3.31	9,154,000	
19	継続	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(3)	市原市	神門古墳群 台遺跡ほか	古墳群 集落跡ほか		基礎整理	61.4.1	62.3.31	25,000,000	
20-a	継続	市原信用組合郡本店建設に伴う埋蔵文化財調査	市原信用組合	郡本	集落跡	360㎡	本調査	61.4.7	62.3.30	2,056,566	3,165,033
20-b							整理 報告書刊行	61.5.30	62.3.31	1,108,467	
21	新規	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査	有限会社 若宮不動産	白船城跡	土師集落	1,126.23㎡	本調査 整理 報告書刊行	61.5.15	62.3.31	4,967,769	
22	新規	能満千草山への文化施設建設用地造成工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	千草山	集落跡ほか	2,400㎡	本調査	61.7.15	62.3.31	6,999,000	
23	新規	ザ・カントリークラブ上郷コース新設工事に伴う埋蔵文化財調査	日昭開発株式会社	軍谷	包蔵地	36,700㎡ 970㎡	確認調査 本調査	61.11.20	62.3.31	7,717,893	
24	新規	柿崎神社緊急確認調査	市原市	柿崎宮山	集落跡	2,000㎡	確認調査	61.12.1	62.3.20	2,300,000	

番号	継続 又は 新規	事業者	委託社	遺跡		面積・数量	事業内容	契約 年月日	終了 年月日	受託料 清算金額
				名称及び種別						
25	新規	農業公社牧場設置 (草地造成)事業に伴う 埋蔵文化財調査	社団法人 千葉県農業 開発公社	文	作集落跡	18,500㎡	確認調査	62. 1. 28	62. 3. 25	6,600,000
26	継続	都市計画道路君塚・ 小田部線建設に伴う 埋蔵文化財調査	市原市	上	大堀包蔵地	200㎡	本調査	62. 3. 9	62. 3. 31	1,723,000
27	新規	模型飛行場造成事業 に伴う埋蔵文化財調 査	双葉電子工 業株式会社	鯉	鯛包蔵地	5,600㎡	確認調査	62. 3. 5	62. 3. 31	1,036,687

(4) 職員研修

① 職員研修会

第1回 昭和61年5月31日 於 市原市市民会館

「現場における応急手当ての方法」 市消防署職員

「動物遺存体の研究」 早稲田大学講師 金子浩昌先生

第2回 昭和61年12月23日現場研修

県立房総風土記の丘・県立房総のむら

県文化財センター調査現場 人形塚古墳・有吉北貝塚

② 外部研修への参加

埋蔵文化財発掘技術者専門研修 「歴史時代遺跡調査課程」

昭和61年11月24日～昭和61年12月21日

埋蔵文化財発掘技術者特別研修 「土層転写課程」「遺物取りあげ法課程」

昭和61年10月7日～昭和61年10月16日

於 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修

昭和61年9月11・12日

於 館山市

関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会

昭和61年12月11・12日

於 茨城県鹿島郡鹿島町

市町村埋蔵文化財担当者講習会

昭和61年5月14日～昭和61年5月16日

昭和61年7月29日～昭和61年7月31日

於 千葉市他

(5) 印刷物の刊行

①報告書

沢遺跡

南富士台遺跡

御蔭目浅間神社古墳

上大堀遺跡

下ヶ谷台遺跡

菊間手永遺跡

東国吉川中遺跡

白船城跡

郡本遺跡

下鈴野遺跡

外迎山・唐沢・山見塚遺跡

②研究紀要の刊行

(6) 普及活動

①遺跡発表会

昭和62年3月8日

於 五井会館

昭和61年度発掘調査成果の発表

担当職員

特別講演

「東国における青銅器の世界と市原」

明治大学教授

大塚 初重先生



②私たちの考古学教室

昭和61年12月6・7日

於 市原市姉崎公民館

特別講演

「上海上国造と姉崎神社について」

共立女子短期大学専任講師 前之園亮一先生

③遺跡見学会

昭和61年7月26日

於 諏訪台古墳群

④印刷物の刊行

「私たちの文化財」4～7号

市原市文化財センター年報 昭和60年度

シリーズ市原の遺跡2 「縄文時代の生活」

報告書の刊行及び頒布

(7) 昭和61年度決算報告

取 入

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	予算現額に 比べ決算額 の増減	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
(款)事業収益	478,801,000	△ 4,107,000	471,694,000	469,638,354	△ 2,055,646	
(項)事業収益	474,753,000	△ 7,536,000	467,217,000	465,127,172	△ 2,089,828	
(項)事業外収益	1,047,000	3,430,000	4,477,000	4,511,182	34,182	
(項)雑収入	1,000	△ 1,000	0	—	—	
合 計	475,801,000	△ 4,107,000	471,694,000	469,638,354	△ 2,055,646	

支 出

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	不 用 額	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
(款)事業費	475,801,000	△ 4,107,000	471,694,000	469,638,354	2,055,646	
(項)受託事業費	439,626,000	△ 6,553,000	433,073,000	430,395,537	2,677,463	
(項)研究事業費	3,935,000	402,000	4,337,000	4,184,757	152,243	
(項)普及事業費	5,205,000	△ 100,000	5,105,000	4,894,568	210,4132	
(項)一般管理費	25,035,000	4,144,000	29,179,000	30,163,492	△ 984,492	
(項)予備費	2,000,000	△ 2,000,000	0	—	—	
合 計	475,801,000	△ 4,107,000	471,694,000	469,638,354	△ 2,055,646	

Ⅲ 昭和61年度調査概要

今年度の発掘調査は、確認調査を10遺跡、本調査を13遺跡実施した。調査地点としては市の北部地域に集中しており、この地域の開発行為の多さを物語っている。しかし、数は少ないながらも、南部地域にも及んでいる点は今後の開発行為の動向を示すものであろう。発掘調査によって検出された遺構・遺物は数多く、時代も先土器時代から近世まで広範囲に及んでいる。しかしながら、先土器時代においては、遺構・遺物の調査を目的に発掘したものではなく、他の上層の遺構・遺物の調査中に偶然発見されたものである。市原市においては、先土器時代の様相が必ずしも十分であるとは言えないため、この時代の調査は今後の課題である。

縄文時代では、諏訪台古墳群において、早期の大型住居跡が、奉免上原台遺跡において前期の住居跡が検出されている。また、軍谷遺跡においては狩猟等に使用された落とし穴が、諏訪台古墳群・奉免上原台遺跡・大道遺跡においては炉穴群が検出され、西広貝塚では後期の貝塚が、諏訪台古墳群では地点貝塚が調査され、人骨等が出土している。

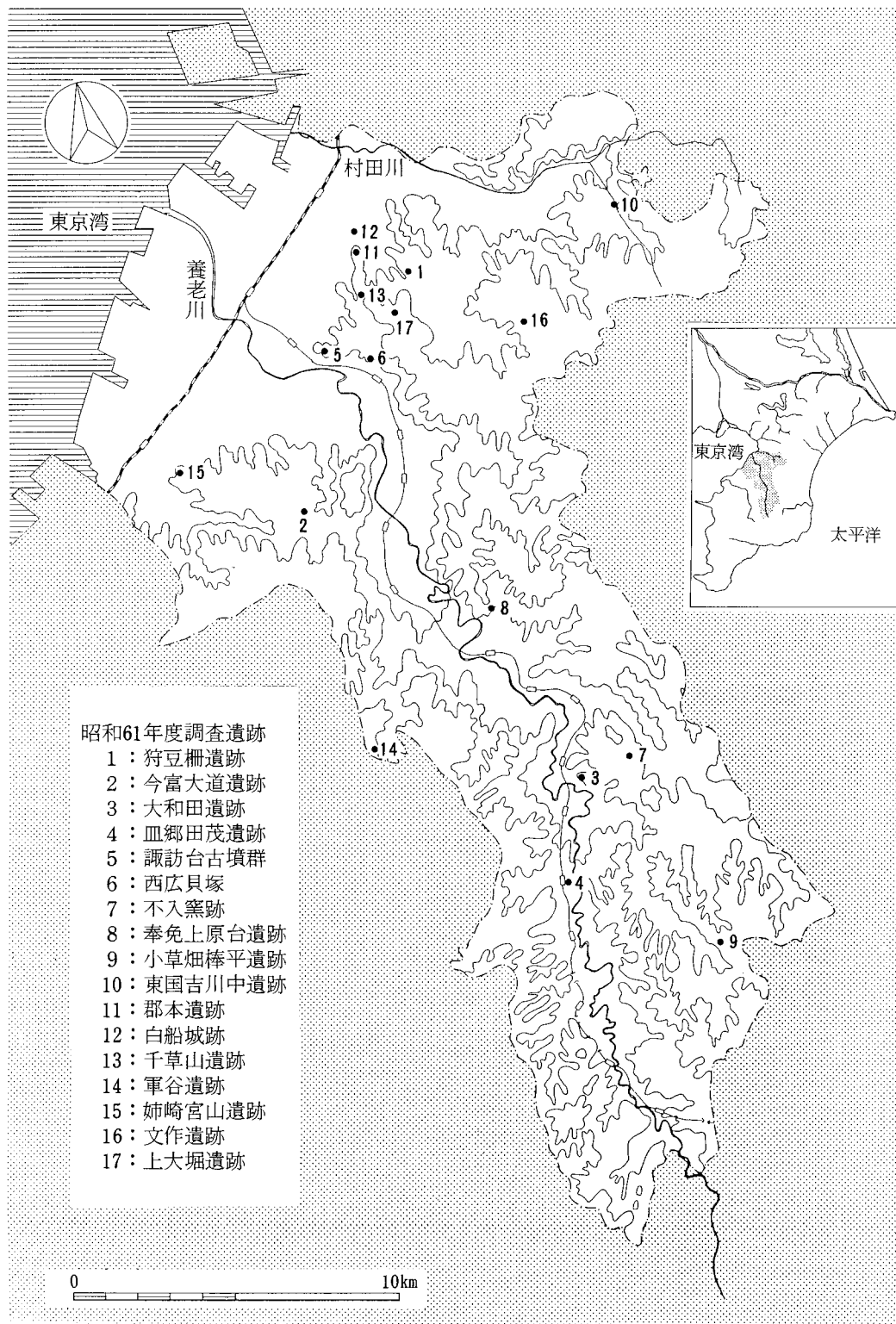
弥生時代では、諏訪台古墳群において中期の方形周溝墓群が検出され、この時期の墓制を知る上で貴重な資料と言える。また、郡本遺跡・白船城跡・姉崎宮山遺跡では中期から後期の住居跡が検出され調査された。

古墳時代においては、諏訪台古墳群において前期から後期の古墳が調査され、中でも48号古墳とした方墳の主体部からは中国の鏡である盤龍鏡が出土し、畿内との関係を有する首長の墓と考えられ、この古墳群を明らかにする上で貴重な資料と言える。また、後期から終末期古墳においてはこの地域での終末期の方墳の出現を考える上での貴重な資料が得られている。この他では大和田遺跡では後期古墳が、東国吉川中遺跡・皿郷田茂遺跡では方形周溝墓が、大和田遺跡では横穴墓が検出され調査されている。この時代の集落跡の調査としては東国吉川中遺跡・千草山遺跡・姉崎宮山遺跡・文作遺跡がある。なお、この時代の生産遺跡として大和田遺跡があり須恵器を焼成した窯1基が調査され、貴重な資料が得られた。

奈良時代から平安時代にかけては、諏訪台古墳群・奉免上原台遺跡における方形周状遺構、大和田遺跡における小型横穴墓等のほか、集落跡の調査として郡本遺跡・奉免上原台遺跡・白船城跡・千草山遺跡・姉崎宮山遺跡等で住居跡・掘立柱建物跡が検出されている。生産遺跡としては、永田・不入遺跡があり、須恵器を焼成した窯跡が検出され調査されている。また、時期的にははっきりしない点もあるが、千草山遺跡からは地下式土壙が検出されている。

中世から近世にかけては、白船城跡の戦国時代に構築された城跡があるが城に関する遺構は、はっきりしない。また、小草畑平遺跡では近世の出羽三山の信仰に伴う三山塚が調査され、数多くの古銭が出土し、近世の信仰或は祭祀行為を知るうえで貴重な資料といえる。

以上、発掘調査による成果のほか確認調査においても各時代の遺構・遺物が検出されている。



昭和61年度調査遺跡位置図

1. 狩 豆 柵 遺 跡

事業名 市道166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満字狩豆柵1780-1 他

調査期間 昭和61年6月11日～昭和61年7月24日

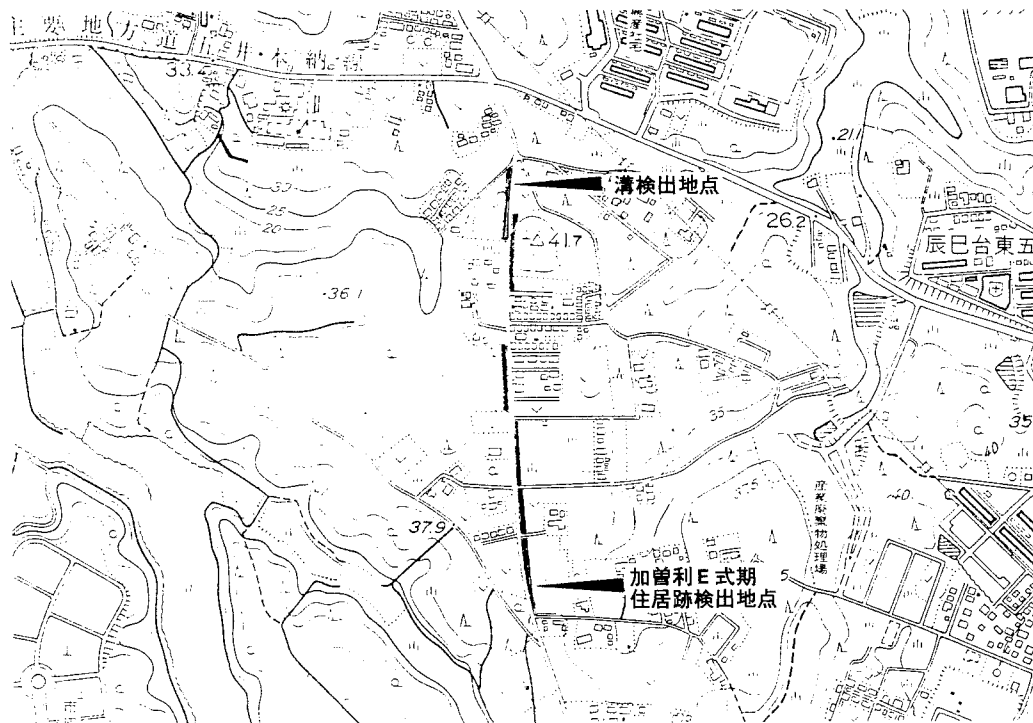
調査面積 3,500㎡のうち10%(確認調査)、50㎡(本調査)

調査概要 市道166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査は、60年度に能満・烏堀込貝塚の調査を実施したところであるが、今年度は、同路線と県道五井・本納線の交わる東四辻交差点から、南方へ約500mに亘り、確認調査を行った。その結果、縄文時代中期加曾利E式期の住居跡1軒と、現道に直行する溝2条を検出し、当該部分においてトレンチを拡張し、本調査を実施した。

溝については、断面逆台形を呈し、上端で幅約3m、下端で約1mを計る。覆土上方から須恵器無台坏の底部の破片が出土した。この溝の性格については不明であるが、覆土に硬化した面が認められないところから、道路としては捉えられない。現道と直行している点なども考えると、何らかの区画を意図したものとも考えるのが妥当であろう。

なお、この溝に関して、今回調査を行い得なかった、現道の東側部分については、62年度に調査を実施する予定となっている。

(高橋 康男)



2. 今^{いま}富^{どみ}大^{だい}道^{どう}遺^い跡^{せき}

事業名 市道2135号線改良に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市今富大道1055-1 他

調査期間 昭和61年5月1日～昭和61年9月30日

調査面積 13,500㎡のうち1,350㎡(確認)6,100㎡(本調査)

調査概要 房総半島の中央部に南北に長く市域を形成している市原市は、首都東京の近隣に位置しているため、ベッドタウンとしての宅地造成、レジャー施設としてのゴルフ場建設などが増加の一途をたどり、道路網の整備が急務となっている。

ここに調査概要を報告する今富大道遺跡も、かゝる状況下において進められている市道2135号線改良工事に伴う調査として、道路建設予定地内に存在する埋蔵文化財を対象として発掘調査を実施したものである。

今回の調査対象区域は、立野から海保にぬける2135号線の内、1.8kmについて確認調査を行ない、確認調査の結果を基として、立野から東関東自動車道路と2135号線との交点に至る東西500mの区間を対象として本調査を実施した。

本調査区域は、第1図の調査区域図に見るように、道路建設予定地域内のみを対象として設定しているため、非常に細長い範囲となり、最大幅部分で12m余りを計る程度である。本調査にあたって便宜上調査区域の東側端部分をA区とし、以下、西側に向けB～F区に区分し、更にB区についてのみB1～B3区と細分し、それぞれの区域ごとに調査を進めた。

調査の結果検出された遺構・遺物は、縄文時代早期茅山式期に位置づけられるものが主体的であったが、前期～後期に属する土器片が少量と、一部で近世頃に位置づけられる極めて大形の遺構も検出されている。

A区:本区では、茅山式期の炉穴が、10群17穴確認され、焼土部分を26個所で認めている。これら炉穴には、一基が単独で検出され、片端に焼土を見る例、単独ではあるが長楕円形の遺構の両端に一個所づつ焼土が検出される例、及び、複数の遺構の重複により焼土部分も数個所に認められる例などがある。また、炉穴の他に焼土を伴わない遺構が幾つか検出されているが、それらの遺構は、炉穴とは平面形状等において相違が見られるものの、遺構内からは炉穴同様茅山式期の土器片を伴出する例が多い。

他の遺構として、A区の南側部分において、東西方向に延びる溝と一辺が40m程で、両端に径1～1.5m程のピットを付設する性格不明の大形な落ち込みを検出している。これらは、その遺構内堆積土中に宝永の火山灰と思われる堆積土が、散在的に数個所で確認されているので、近世頃に掘り込まれたものと考えられる。

B区:A区に接した西側部分をB区としたが、便宜的にB1～B3区と区分した。

本区では、A区のように炉穴の検出例は多くなく、B3区において3穴が確認されたにすぎない。しかし、当区では、炉穴に比べ性格の不明な円形状の遺構が多く検出されている。また、B2区において、A区で確認された大形な掘り込みと同様の形状を呈する遺構が検出され、B1区では、東西に走る溝が検出されている。なお、B2区において一部道路跡と思われる硬く締った面が、幅1m、長さ12m程の範囲に亘って確認されている。

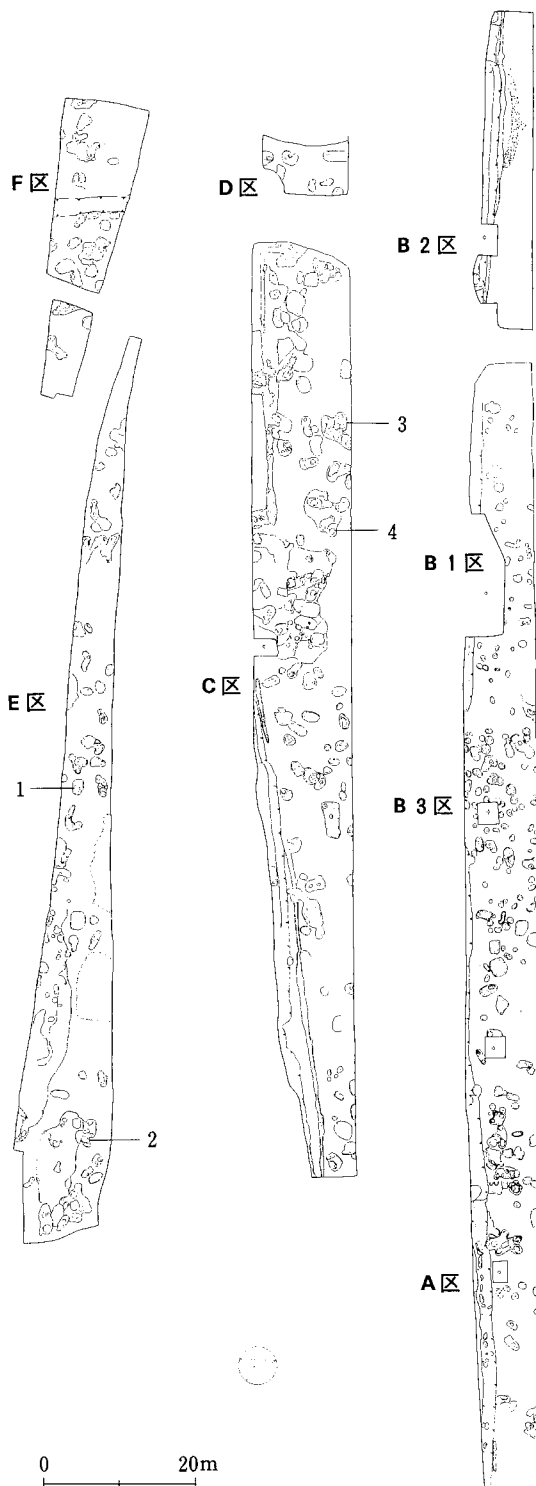
C区:本区では、11群30穴の炉穴が見られ、焼土は56個所で確認している。これらの炉穴中には、C区中央部付近に在る炉穴のように、1個所で10基程が重複し、20個所に焼土を見るなど、多数の炉穴が重複し合った例も見られる。炉穴以外の遺構は比較的少なく、土壙状の遺構、あるいは、A・B区で見られた大形な性格不明遺構等が検出されている。

D・E区:C区に比べ炉穴の検出数は少なく、重複する例も少ない。本区では、一部にゴミ穴等の攪乱が大きく入り込んでいるため、遺構が破壊を受け残存していない部分もあるものと思われる。

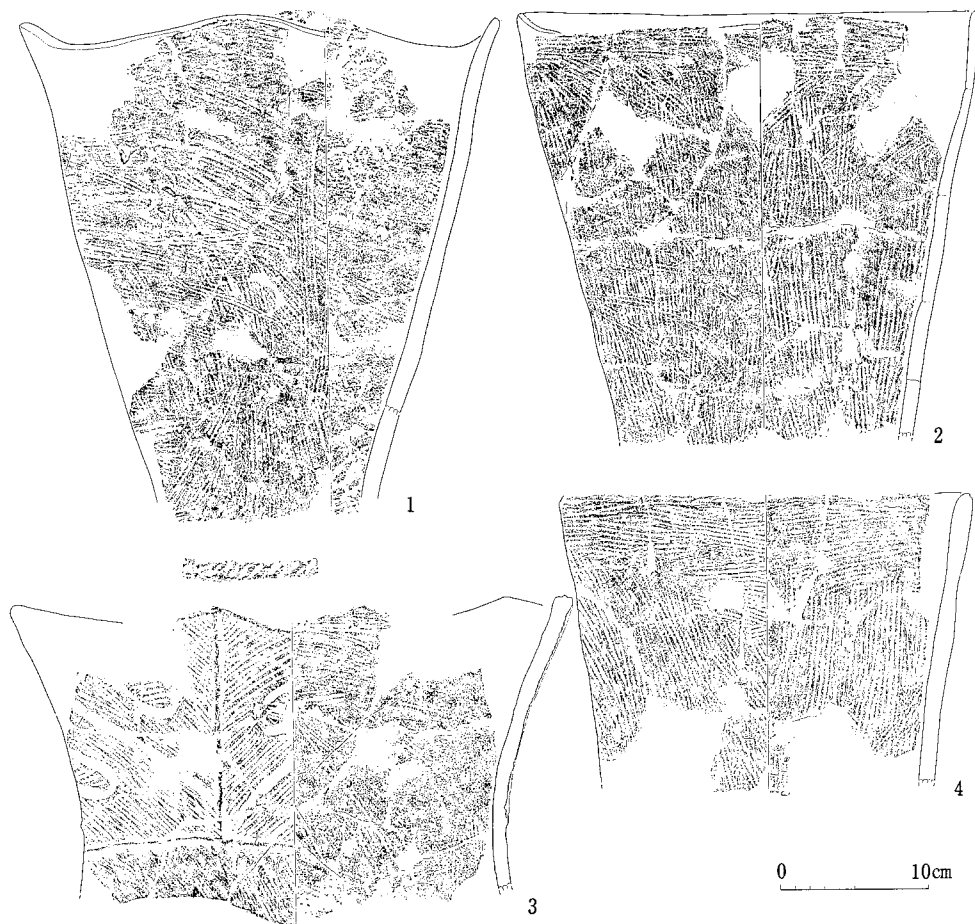
F区:調査区の最西端で、その西側には東関東自動車道が南北に走る予定である。

8群9穴の炉穴に14個所で焼土が見られ、F区中央部には、南北に延びる断面V字状の溝が1条確認されているが、他の遺構は余り多くはない。

出土土器:形状の大凡把握できるものの中



第1図 今富大道遺跡調査区内遺構関連図



第2図 今富大道遺跡炉穴内出土土器図

から、4点を選び第2図として揚げた。これらの土器は、いずれも炉穴内からある程度のまとまりを持って出土したものである。

1は、E区No.13炉穴出土のもので、外反状の波状口縁を有し、表裏面共に貝殻条痕文を施している。2・4は、共に平縁な外傾する口縁をもつ深鉢形土器で、口縁部には横位に、胴部付近では縦方向に貝殻条痕文を施文している。2はE区No.1、4はC区No.106C炉穴出土。3は、C区No.104炉穴から出土し、波状口縁を有し、口縁部表面には微隆起線文と、斜方向の平行な集合沈線及び、集合沈線上に更に篋描きによる太目な曲線を配し、胴部以下と裏面には貝殻条痕文を充填している。また、口唇部上に斜方向の刻み目文を施すことも一つの特色である。

本遺跡出土の土器は、図に示したように、貝殻条痕のみを施文した例が多いが、図3の土器の如く、微隆起線文、平行な集合沈線を施文する例も多く、時期的には、野島式期の範疇に属するものとして捉えられるものと思われる。(米田耕之助)

3. 大 和 田 遺 跡

事業名 市道7253号線改良に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市大和田字緑岡378-16他

調査期間 昭和61年7月1日～昭和62年3月25日

調査面積 1,000㎡

調査概要 本遺跡は、養老川中流域東岸の台地上に位置する。この台地は小谷によって複雑に開析され、平坦な所は狭く馬の背状の瘦せ尾根が連続している。又、台地の南側前面には養老川沖積地が帯状に広がり眺望のよい地点でもある。

この台地は、大和田横穴群、緑岡古墳群として横穴墓が40基以上、古墳が8基所在することが知られ、今回はそれらの一部である古墳3基、横穴墓16基が調査され、他に土壙墓1基、須恵器窯1基、竪穴住居跡1軒、溝1条が検出された。古墳は、東西に伸びる馬の背状の尾根に並んで造営された8基のうちの3基を調査し、東側に2基、西側に3基の未調査の古墳が現存している。今回調査した3基は東側の高所から西側に、円墳(長径14.2m、短径10.9m)方墳(一辺約9m)方墳(一辺約7m以上)の順に位置している。古墳は墳丘が一部遺存していたが、西側の方墳は周溝の一部しか遺存していなかった。又、主体部はいずれも検出されなかった。出土遺物は、西側方墳の周溝から後述する須恵器窯で生産された須恵器の破片がまとまって出土した他は少量で、古墳の築造時期は明確にし難いが、一応3基共に6～7世紀の築造と考えられる。横穴墓は、台地上所在の二群のうち、先述の円墳の直下の崖面に集中して築造されていた北側の一群の調査を行なった。大型のもの4基、中型2基、小型10基の計16基の調査を行い、出土遺物としては、須恵器(高坏・壺・大甕)、土師器(坏・高坏・甕)、金銅製耳環、銅釧、ガラス小玉、太刀、鉄鏃等で古墳と比して豊富であった。遺物の多数は、6～7世紀の古墳時代後期のものであるが、小型横穴から8世紀の高台付坏も1点出土している。須恵器窯は斜面にトンネル状にほり抜かれた、いわゆる登り窯で、前方2/3以上を道路によって破壊され、煙道部を含め長さ約3.5mしか遺存しなかったが、煙道部付近の遺存は良好で天井部分が確認され形状が把握できた。遺物は、灰原部分が遺存しないためそれほど多くはないが、胎土や焼成に特徴があり、先述の古墳・横穴墓、竪穴住居跡、溝からこの窯の製品が出土している。時期は一応7世紀初め位のもと考えられるが、調査時の所見によるもので、今後の整理作業の進捗が期待される場所である。他には土壙墓1基が古墳の北側から検出され、刀子が副葬されていた。竪穴住居跡は床面が若干遺存するのみで、炭化物と須恵器片が少量出土している。溝は全長18mで屈曲部から須恵器片が集中して出土している。

本遺跡の立地する加茂地区南部は、養老川流域の古墳群分布の南端に位置し、一方近隣の長

柄町・茂原市を中心とする東上総横穴郡の西端にもあたることから両者が併存しているが、ほぼ同時期の築造とみられ両者の位置付けに留意する必要がある。須恵器窯については、県内最古、唯一の古墳時代の須恵器窯とみられ、約800m北東に位置する奈良時代最古の永田・不入須恵器窯との関連も注目すべきであろう。又、本須恵器窯と古墳・横穴墓・住居跡・溝との関連についても考慮されるべきであろう。

(加藤 正信)



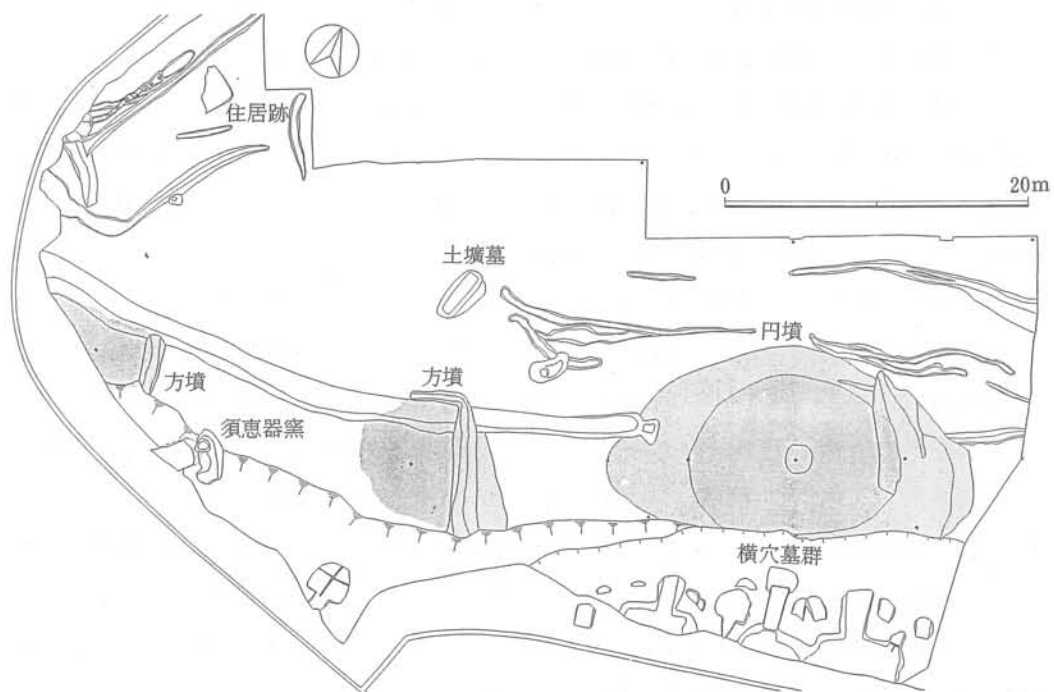
1

1：南上空から見た大和田遺跡。手前側中央やや左寄りの足場のあるところが窯跡。

2：窯跡遺物出土状況。天井部がわずかに残存。



2



大和田遺跡全体図

4. 皿郷田茂遺跡

事業名 加茂支所移転改築事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市平野字皿郷田茂70 他

調査期間 昭和61年6月2日～昭和61年7月19日

調査面積 4,711㎡(確認・本調査)

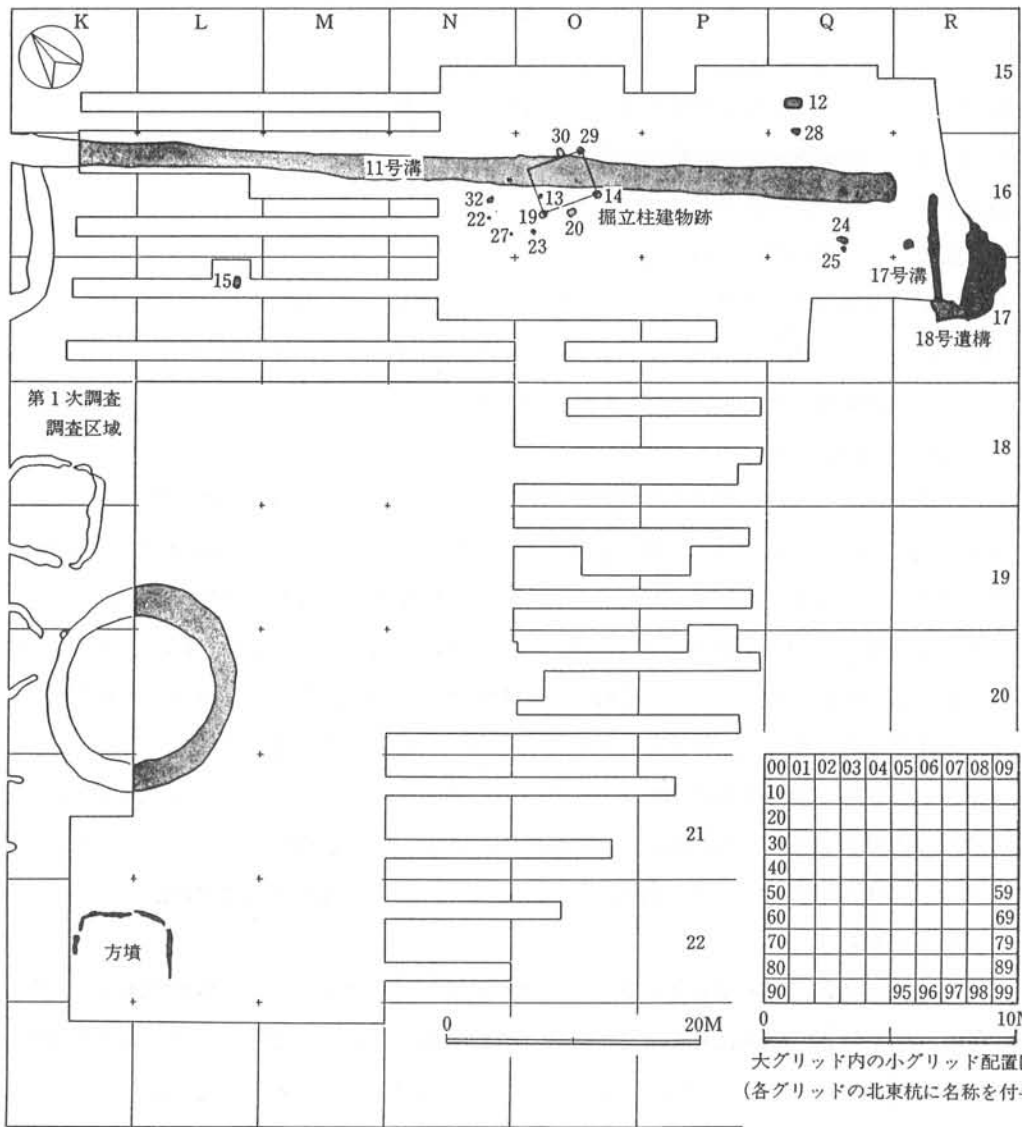
調査概要 本遺跡は、養老川中流左岸の標高約50mの台地上に位置する。この台地は、北東方向に舌状に延びており、南側から北側に向け緩やかに傾斜している。なお、この台地は、養老川によって形成された段丘面のうち最下位の沖積世の段丘面上に立地しており、全体に粘性のある「ローム質土」を地山としている。

皿郷田茂遺跡は、今回の調査地の西側隣接地を本センターで昭和58年度に調査しており既に報告書も刊行されている。(『皿郷田茂遺跡』(財)市原市文化財センター 1982参照)で古墳時代前期と集落と方形周溝墓が調査された以外、当該期の様相は把握しがたい状況にある。

今回の調査でも、前回の調査とほぼ同時期とみられる方墳1基・溝2条・掘立柱建物跡1棟・土壇10基などが検出されている。方墳は、一辺約8mの小規模なもので、周溝は全周せず、埋葬施設も確認できなかった。掘立柱建物跡は、2間×2間の東西棟建物とみられ5本の柱穴が確認され、4箇所からは柱痕跡が認められた。土壇は、柱穴状のもの4基、その他6基であるが、用途は特定できなかった。溝は、幅2.2m～2.8mのものと、幅0.5m～0.9mのもので、畑地の境界の可能性が考えられる。出土遺物は、極めて少なく小破片の状態出土しており、すべて土師器である。

養老川中流域における古墳時代の遺跡の分布は希薄で、その原因として可耕地確保の困難性が指摘され、皿郷田茂遺跡においては、畑作が生産基盤であろうとされている。溝や掘立柱建物跡は性格不明とはいえ、耕作地の近在を暗示していると考えられることも可能であろう。なお、本遺跡の報告書は昭和62年度末刊行予定であるので、詳細は報告書を参照されたい。

(加藤正信)



大グリッド内の小グリッド配置図
(各グリッドの北東杭に名称を付与)



5. 諏訪台古墳群

事業名 市原市国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市村上902 他

調査期間 昭和61年4月1日～昭和62年3月31日

調査面積 12,461㎡

調査概要 今年度の調査対象地域は、前年度の調査区域内の未調査地点7,000㎡と新たに用地買い上げによって調査可能となった前年度調査区域の東に隣接する地域5,460㎡を行った。検出遺構は、次の通りである。

縄文時代早期では、住居跡10軒・炉穴129地点から360基・地点貝塚23基・陥穴2基・落ち込み10基を検出した。特に、大型で長台形の8軒の住居跡は、6ないし8本の支柱穴とベット状遺構を有し、最大規模で主軸長13.5m・幅4.5～7.2m・深さ0.9mを測る。また、住居跡や炉穴覆土中にカキ・ハマグリを主体とする貝塚を形成することも注目される。前期では、昨年度調査済の6軒のみで、これは昭和54年度以来断続的に調査され明らかにされつつある関山期の環状集落の一面を成すものである。

弥生時代では、中期の方形周溝墓34基を検出し、四隅にブリッジを有し、主軸と同方向に長軸を置く主体部を検出するものが大多数を占める。占地状況から、計画的に配置されたものであろう。主体部からの副葬品の検出はない。

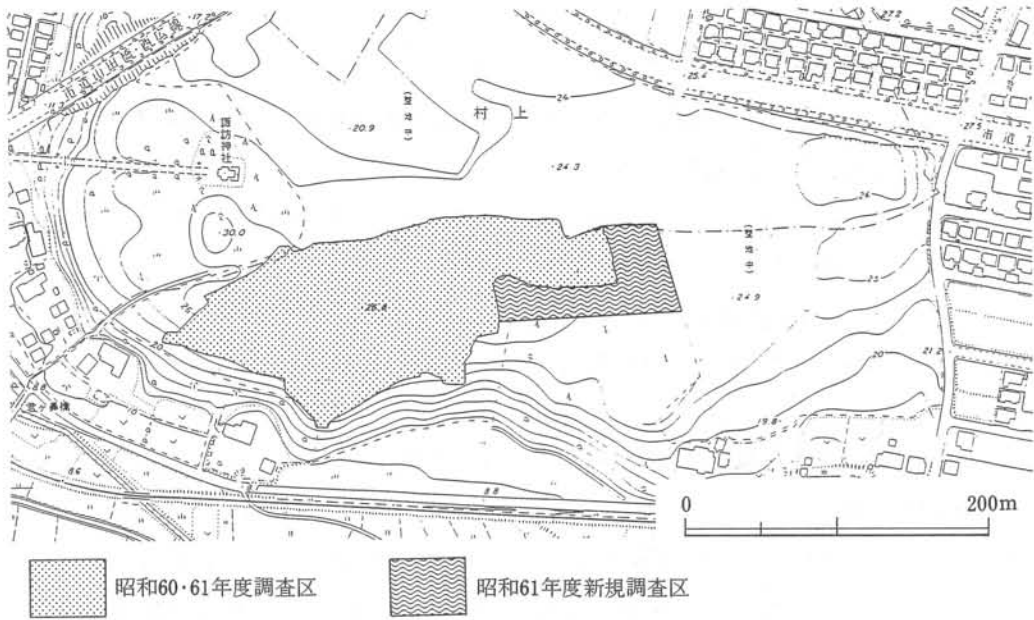
古墳出現期～古墳時代前期では、方形17基・前方後方形1基を検出し、仮称048号からは盤龍鏡1面を出土した。大きくは前方後方形を含む東側支群5基と盤龍鏡を出土した台地先端部よりの西側支群13基に分けられ、出土遺物からも東海系や伊勢湾岸系など外来系土器と在地系に分けられようか。主体部は4基より検出し、割り竹形木棺の痕跡を示し、副葬品には、ガラス玉・剣・すき先などが認められる。古墳時代後期～終末期では、円墳14基・前方後円形の円丘系は6世紀から7世紀前葉に築造され、副葬品が最も豊富な時期である。以後7世紀中葉からは、当台地上の古墳の墳形は方墳形に踏襲されることになる。

奈良～平安時代は、方形周溝15基・住居跡13軒・土壇墓8基・掘立柱建物跡14棟・井戸跡3基・溝6条・骨蔵器1点などを検出した。方形周溝の埋葬施設には、曲物を骨蔵器に利用したと考えられる、掘立柱建物跡の柱痕跡状の土壇状の遺構や、有天井土壇・地下式施設などを設けている。遺物の検出が希薄で時期の限定が困難であるが、当台地上での50基になんなんとする方形周溝の占地状況を考慮するならば、時期別の変遷も可能であろう。いずれにしる方形周溝の終焉は9世紀前半であろうか。住居跡13軒も1～2軒が、7世紀中葉～9世紀中葉まで断続的に営まれたものである。掘立柱建物跡は、時期限定が困難であるが、方形周溝より先行するも

のもあり、住居跡同様の有り方をしめし、当台地が墓域と言う特殊な存在であることから葬制に関わる施設として考えられよう。(浅利 幸一)



第1図 諏訪台遺跡昭和60・61年度遺構検出状況図



諏訪台遺跡遠景



縄文早期大型住居跡

附：諏訪台古墳群048号墳出土の平縁盤龍鏡

諏訪台古墳群の昭和61年度調査区における概要は前項のとおりであり、このうち、古墳時代前期の築造にかかるものは、方墳17基・前方後方墳1基の計18基であった。本古墳群の調査では、昭和49年以来、既に150基程の古墳の調査を実施してきているが、これまでに前期古墳であると確認されたものは27基であり、養老川や東京湾に面した台地西側縁辺部に密集する傾向が窺われている。(第1図)

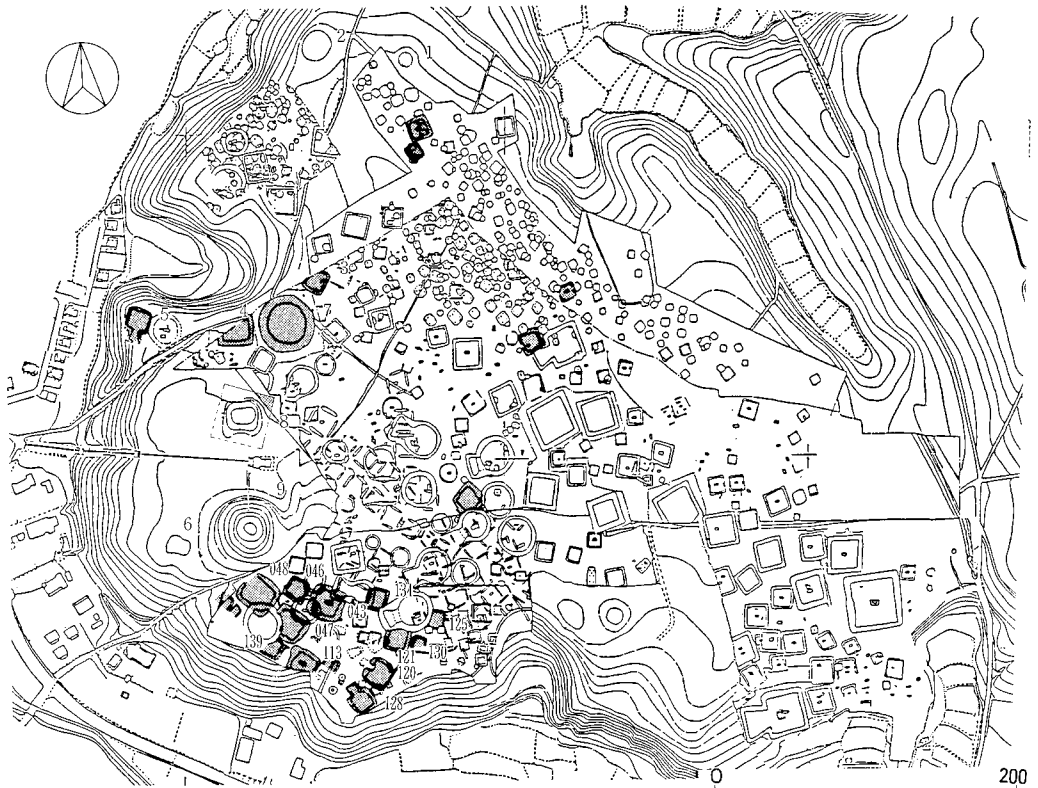
ここに紹介する平縁盤龍鏡は、このうちの一基にあたる048号墳より出土している。

048号墳は、諏訪台古墳群中で最も規模の大きい9号墳の南側に隣接した方墳であり、043号墳・046号墳・047号墳・113号墳とともに6基で一小支群を構成している。古墳の規模は周溝底面で一辺約16mを測る。周溝は比較的狭いが、U字状の断面形を呈しており、北側のコーナー付近が切れて全周していない。この、北側コーナー部分の開口については、急傾斜地の堆積土流出による欠損とは異なり、人為的に掘り残されたブリッチと考えられる。あるいは048号墳の北側を西南にむかって降りる小径は、墓道の余波であろうか。小径に面した墳丘裾部から、壺の一個体が一括して出土している。墳丘は、旧表土上の外周に周溝掘削土(旧表土～ローム土)を盛土した後に、内側をも同様の土で充填しながら構築したもので、裾部は地山削り出しによって造り出されている。主体部は墳頂ほぼ中央に設けられたものと想定される。内部施設の構造は、幅員約1m長さ約4mの割り竹形木棺と想定されるが、資料整理の段階で再考を要する。想定される木棺の内部には、副葬品等は認められなかった。墓壇は木棺安置後盛土同様のローム土ブロック等によって埋め戻されており、整地面を形成している。

平縁盤龍鏡は、この墓壇埋め戻し土の上面から鏡面を上にした状態で出土している。面径約12cmの青銅鏡であり、鏡面はゆるやかな凸面となっている。出土した時点では内区が6片に割れていたが、欠失箇所はなく、完形に復原することができる。また、二次的な移動も考えられない状況にあった。おそらくは、土圧等によって割れたものであろう。裏面内区には、円形鈕を取り囲む様な形で二頭の盤龍が対峙して表現されており、櫛歯文がこの外側に巡っている。また、外区には鋸歯文が一条巡っており、間隙に珠文が施こされている。櫛歯文や鋸歯文には幽かに朱の痕跡が観察される。盤龍・鋸歯文・珠文などを観る限りでは、鑄造時点における型のあまさを感じさせるが、櫛歯文や盤龍文の半肉彫りの仔細には繊細な表現を看取することができ一概には做製鏡か舶載鏡かは断じ難い。尚、ガラス玉30点が供伴している。

諏訪台古墳群中の16mクラス古墳から、上記の様な状況で平縁盤龍鏡が出土したことの意味は、古墳の規模や連続性はもとより、方墳系の被葬者であることなどからも考えなければならぬだろう。整理報告の一日も早い実現が望まれる。

(田所 真)



※1号墳から9号墳については、昨年度の遺跡発表会で用いた資料の遺構番号ですが、043・046・047・048・113・120・121・125・128・130・134・139については、昭和61年度調査時に付けたものです。

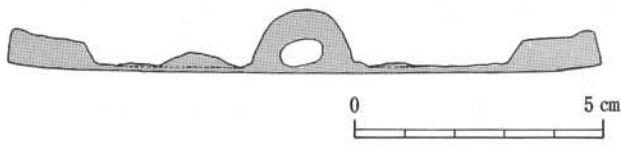
諏訪台古墳群全体の調査終了後に整理の段階で遺構番号のふりなおしを行なうこともありますので、「仮称」として理解しておいて下さい。

調査年度	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良・平安時代
49年度	天神台一炉穴13+(早)	諏訪台一住居跡3 天神台一住居跡81+(後)	諏訪台一円墳1・前方後方墳1・前方後円墳1・方墳1 天神台一方墳	天神台一方形周溝(13)+
54年度			諏訪台一前方後円墳1 天神台一住居跡32	
55年度	諏訪台一炉穴13(早)	諏訪台一住居跡1	諏訪台一円墳1・方墳10	
56年度	諏訪台一住居跡3(前)		諏訪台一方墳7	
57年度	諏訪台一住居跡(早) 天神台一炉穴20+(早)	天神台一住居跡1(中)・住居跡65(後)・ 方形周溝墓5	諏訪台一円墳1・方墳2 天神台一住居跡100+・前方後方1・円墳2・方墳5	天神台一方形周溝12+
58年度	諏訪台一炉穴4(早) 天神台一住居跡17(前)・落し穴5・炉穴14(早)	天神台一住居跡1(中)・方形周溝墓27	諏訪台一方墳6・前方後方1(?) 天神台一円墳10・方墳12	天神台一方形周溝23+
59年度			諏訪台一前方後方1・方墳12	諏訪台一方形周溝3+
60年度	諏訪台一住居跡6(前)・炉穴15(早)	諏訪台一方形周溝墓20(中)	諏訪台一前方後円墳4・円墳8・方墳14	諏訪台一方形周溝6+
61年度	諏訪台一住居跡10・地点貝塚23・炉穴360・落し穴2・落込み10	諏訪台一方形周溝墓34	諏訪台一方墳17(出～前)・前方後方墳1(出～前)・円墳14・前方後円墳4・方墳2・土庫30	諏訪台一住居跡13・独立柱建物跡14・方形周溝15・土庫墓8・井戸3・溝6・骨蔵器1ほか

※本表は、浅利幸一「2. 諏訪台古墳群について」『昭和60年度 市原市文化財センター 遺跡発表会要旨』(1986)に一部加筆したものである。



(模式図)



鏡式 平縁式盤龍鏡

出土地 諏訪台古墳群
 セー28 048号墳
 (千葉県市原市村上)

計測値 (単位=mm)

面径	119.1
内区径	82.9
鈕座(円形)径	26.1
円形鈕最大径	21.9
外区幅(下端)	18.2
" (上端)	14.7
内区肉厚	1.1(土)
外区肉厚	8.4~5.9
半肉彫部肉厚	3.6
(獸頭部)	



(部分写真)

第2図 セー28 048出土の盤龍鏡(実大)

6. 西 広 貝 塚

事業名 国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市西広21番地 他

調査期間 昭和61年11月1日～昭和62年3月31日

調査面積 1,400㎡(本調査)

調査概要 今回の西広貝塚の調査は、第7次調査にあたる。南に開口する馬蹄形の貝塚の東縁およびその外側の部分が調査対象であった。また、今次の調査をもって、西広貝塚の調査は終了する。なお、区画整理事業の対象は、3400㎡であったが、事業計画上、今年度の調査対象は、1400㎡とし、隣接する部分、2000㎡については、次年度に調査を実施することになった。したがってその調査の実施により、西広貝塚の全体像も明らかになる見通しとなった。

今年度の調査の結果、貝層の東側の範囲が明確にされた。その他の成果としては、縄文時代の後期の住居跡や土坑が検出されたこと、また、弥生時代後期の集落の一部が検出されたことを挙げるに留め、詳細については、次年度の年報で報告することとする。 (高橋 康男)



西広貝塚 貝層分布および第7次調査範囲(昭和62年度調査予定部分を含む)

7. 不 入 窯 跡

事業名 県営ほ場整備事業(加茂地区)に伴う埋蔵文化財調査

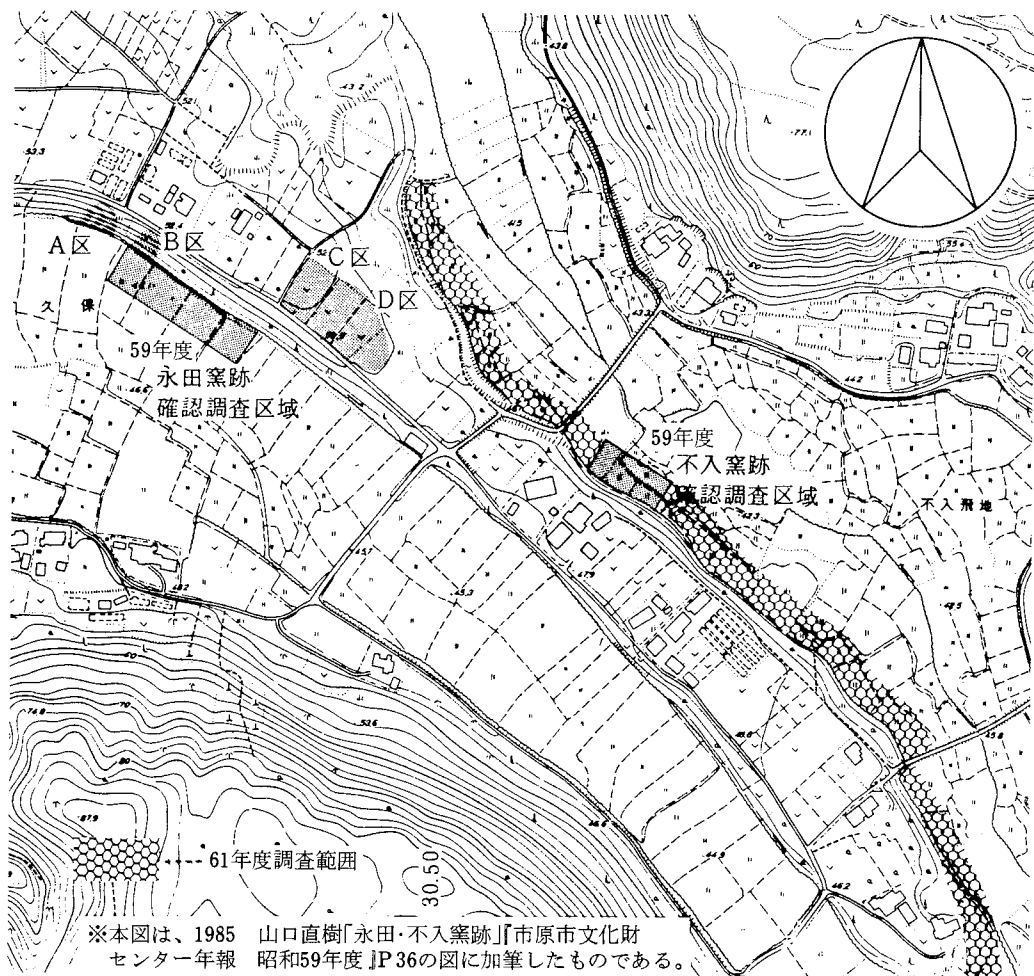
所在地 市原市不入字腰当473-1 他

調査期間 昭和61年12月1日～昭和62年3月31日

調査面積 13,000㎡のうち1,300㎡(確認調査)

調査概要 養老川中流域東岸の「曲流・短絡地形」に操業された永田・不入窯跡については1974年春に國土館大学による窯跡部分(周知のもの)の調査によって、奈良時代から平安時代にかけて操業された須恵器窯跡群であることが確認されている。

その後、1984年には、窯跡部分前面の水田面について、灰原部分の範囲確認調査が実施され



第1図 永田・不入窯跡調査範囲図

新しい器種として口径8 cm以下の小型短頸壺が追加されたほか、永田窯でも円面硯の焼成が確認される等新資料の追加をみている。

今回の調査は、これら窯跡群のうち不入窯跡群側について、窯跡群の広がりを確認するために行われたものである。(第1図)

調査の結果、須恵器窯跡群については、周知の範囲を越えたものは確認されなかったが、古墳時代前期及び奈良・平安時代の溝状遺構2条をはじめとして、少量ながらも良好な遺構・遺物の包蔵を確認することができた。

以下 時期的に古いものから順に取り上げて 簡単に報告しておきたい。

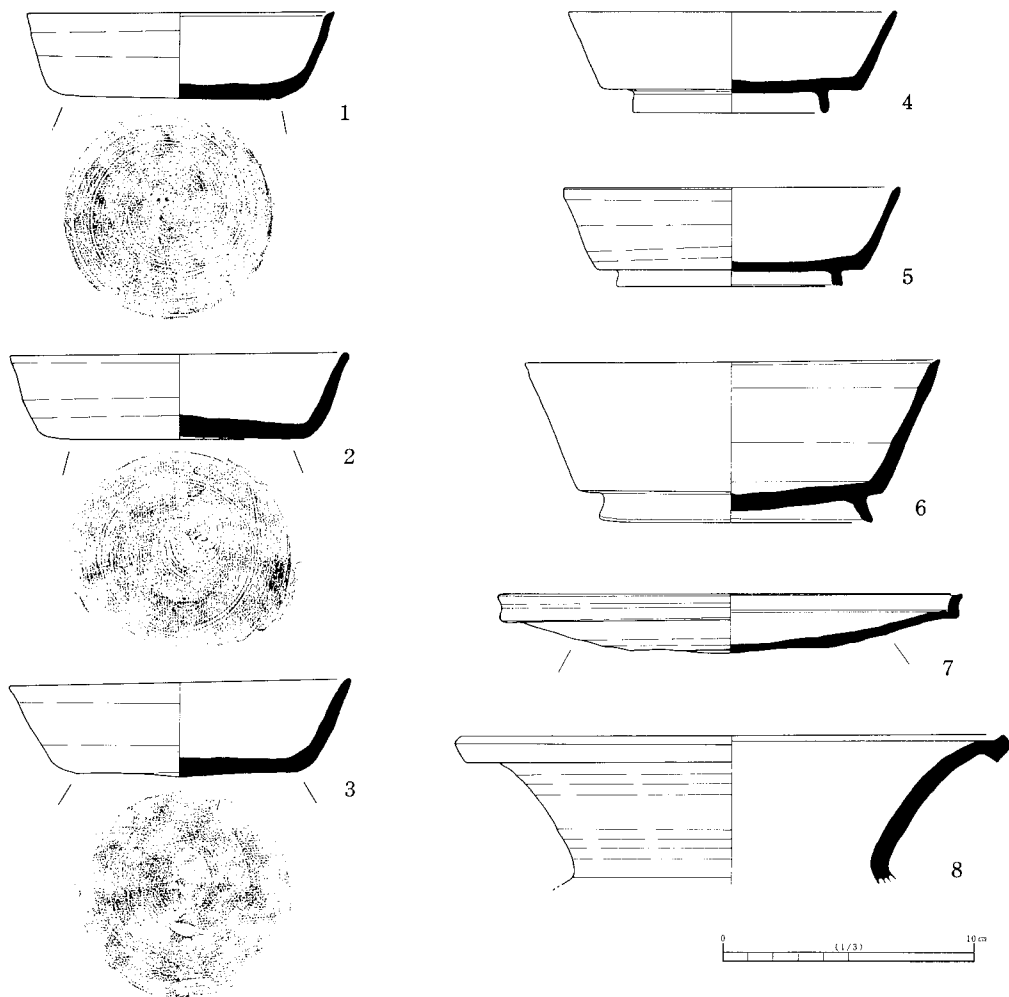
I) 縄文時代 旧河道の曲流によって取り囲まれた台地上では、若干ながらも縄文土器の表面採集が可能である。今回の調査でもグリッド内から縄文土器片や黒曜石片が出土しているが、量的にも少なく、また遺構の存在は確認されていない。

II) 古墳時代 縄文時代に続く弥生時代の遺構・遺物については、まったく発見されていない。これに対して古墳時代の遺物の散布は、量的にも多く台地南寄りに偏在して認められる。今回の調査においても、古墳時代前期(五領期)の所産と考えられる溝状遺構が一条確認された。また、包蔵されている遺物の層位をみると、旧養老川の河川活動が終息したと考えられる層位に出土する例が多くみられ、当該地区の短絡地形形成の時期を示唆しているものと思われる。

III) 奈良・平安時代 今回の調査区域内では、窯跡の追加資料は認められなかった。しかし、当該期の遺構として溝状遺構一条が確認されたほか、須恵器や瓦の集中的に出土する地点が明らかとなった。出土した須恵器の器種構成には特筆すべきものをみないが、EⅢ地点で集中的に出土した瓦についてみると、凸面に縄目叩きを有する赤褐色の平瓦であり、永田・不入窯跡で焼台として再利用されているものと同類のものである。近隣する地域において瓦窯などの存在が知られていない現状では、供給地や生産地を比定し得ないが、当該地域が養老川流域における古墳分布の南限であることや瓦葺き建物の稀少性などからみて、貴重な資料の追加例と考えられる。

以下に、出土資料の一例を紹介しておきたい。

DⅣc-26グリッド出土遺物 図示したものはDⅣc-26グリッド(不入窯跡群東側約70 m地点)より出土した一括資料である。坏類には高台を有しないもの(1)~(3)と有するもの(4)~(6)がみられる。(1)~(3)についてみると、底部外面の調整技法等において、左回転を利用した調整工具の痕跡が外縁から中心に向けて観察されるもの(1)と右回転を利用した調整工具の痕跡が内側から外縁に向けて観察されるもの(2)・(3)とが認められる。(4)~(5)についてみると、高台の形態において、比較的薄手の板状の高台がやや内側につくもの(4)と高台端部



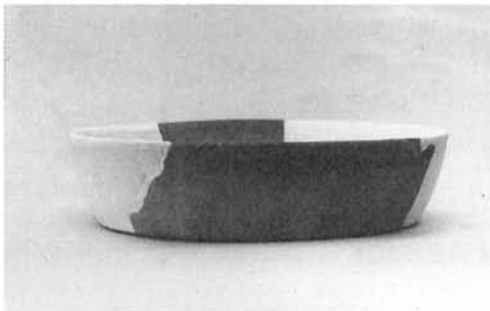
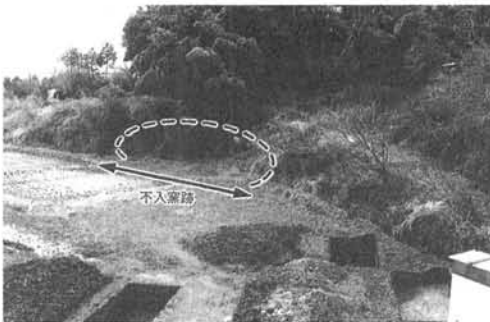
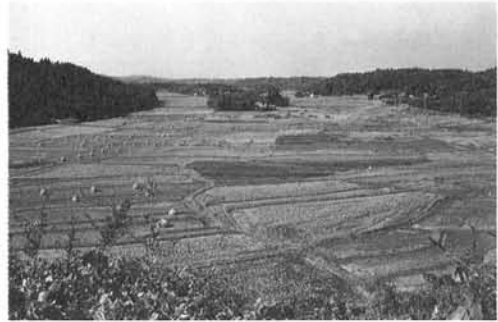
第2図 DIVc-26 グリッド出土遺物

が内傾ぎみに押えられやや開きぎみになるもの(5)・(6)とが認められる。永田・不入窯跡群の資料を瞥見する限りにおいては、(2)・(3)および(5)・(6)は比較的ポピュラーなものであるが、(1)および(4)は、造りも丁寧であり特異な例のようである。法量比較を、少量の資料で行うのは、個体差から生じる誤差を考慮すると困難ではあるが、(1)と(4)および(2)・(3)と(5)はそれぞれに近似している。(5)と(6)については、法量分化の一例として理解しているが、(5)とセットをなすと考えられる蓋は出土していない。(7)は盤であろうか。つまみを有さない蓋とも考えられるが、永田窯跡群中の製品に、類似形態の高盤が見られている。(6)とセットをなすと考えられる擬宝珠型つまみを有する蓋は、DIVc-26一括資料中に別途みられポピュラーな形態を呈している。(7)については、口唇部の形態において類似したものが高盤に認められるようである。(8)は、永田・不入窯跡群の資料としては量的に少ない甕の破片である。接合作業の結果、肩部から焼きゆがみによって頸部以上が陥没したために廃棄された資料であること

が明らかとなっている。胴部外面には平行タタキ目を残すが、内面の当具跡は消されている。他に焼台に使用されたと考えられる瓦片、甕片などが出土している。

Ⅳ)近世 永田・不入窯の操業期にあたる奈良・平安時代の遺物群に連続する遺物については、ほとんど認めることができなかつた。しかし、上層では調査区域のほぼ全域にわたって近世の遺物が出土している。とくに良好な保存状態の調査グリッドでは、宝永期のものと思われる降下火山灰層の中から、古銭等が出土している。このことは、平安時代後半以降降湿地化していたと思われる当該地区においても、近世には近隣する地区に村落が形成され、水田が営まれるようになっていたことを示唆するものであって、その後現代に至っていることを物語っているものと考えられる。

(田所 真)



8. 奉 免 上 原 台 遺 跡

事業名 市原ゴルフ倶楽部増設に伴う埋蔵文化財調査

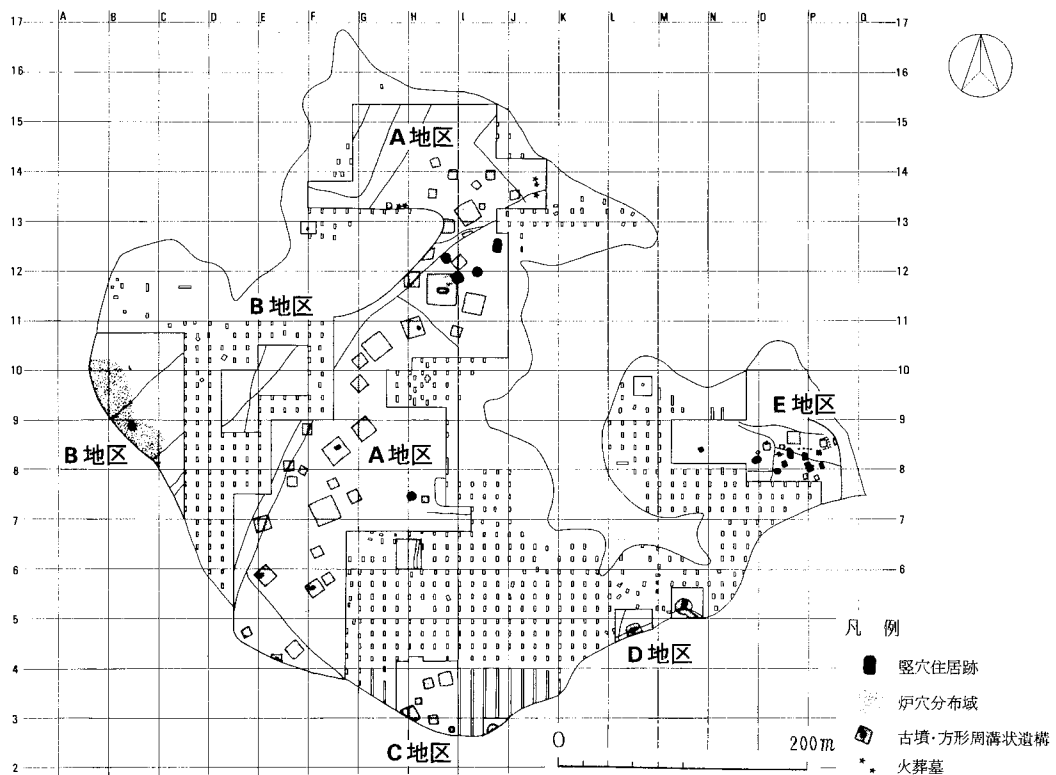
所在地 市原市奉免字上原台1130地先他

調査期間 昭和61年4月1日～昭和61年6月30日(確認調査)

昭和61年7月1日～昭和62年3月31日(本調査)

調査面積 125,000㎡のうち12,500㎡(確認調査)、69,700㎡の77%(本調査)

調査概要 遺跡は、市の南部、牛久の市街地を望む北側台地上に位置し、台地の標高は、約80mで、南側は、養老川中流域の沖積地を望む。低地からの比高は、約30mで、北側には、幾枝かの支谷が入り込むが、概して広く平坦な台地で、東西に延びている。調査は、昭和60年度の確認調査に続き、^(注1)本年度も残りの部分について確認調査を実施し、その後、本調査対象



第1図 昭和61年度調査概略図

区域(69,700m²)の77%について行った。遺跡は、グリッドを基本とするが、面積が広大なため、A～Eの5地区に区分けした。各地区別に検出した遺構は、下表(別表)のとおりである。

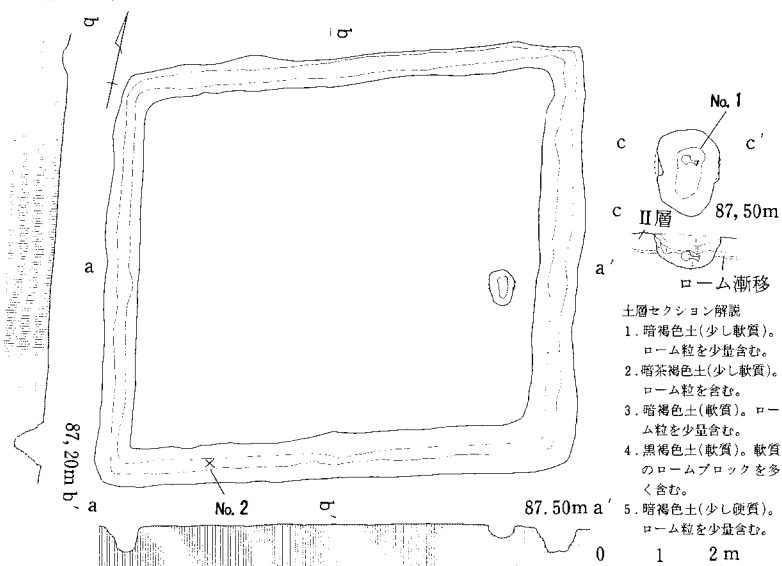
別表 昭和61年度に検出した主な遺構

地区名	主な検出した遺構
A地区	縄文時代早前期竈穴住居跡4軒、炉穴8基以上、縄文時代中期竈穴住居跡1軒、方墳(木棺直葬)5基、方形周溝状遺構33基、溝状遺構15条他。
B地区	縄文時代早期竈穴住居跡1軒、炉穴80基以上、溝状遺構6条、土坑15基他。
C地区	方墳(木棺直葬)1基、方形周溝状遺構6基、円形周溝1、溝状遺構2条他。
D地区	方墳(木棺直葬)1基、前方後円墳(木棺直葬)1基、溝状遺構4条、土坑2基他。
E地区	縄文時代早前期住居跡3軒、炉穴6基、縄文時代後期住居跡1軒、古墳時代中期住居跡2軒、歴史時代住居跡4軒、掘立柱建物跡(1基=2棟以上)、方形周溝状遺構8基、柵列1、溝状遺構6条、土坑65基。

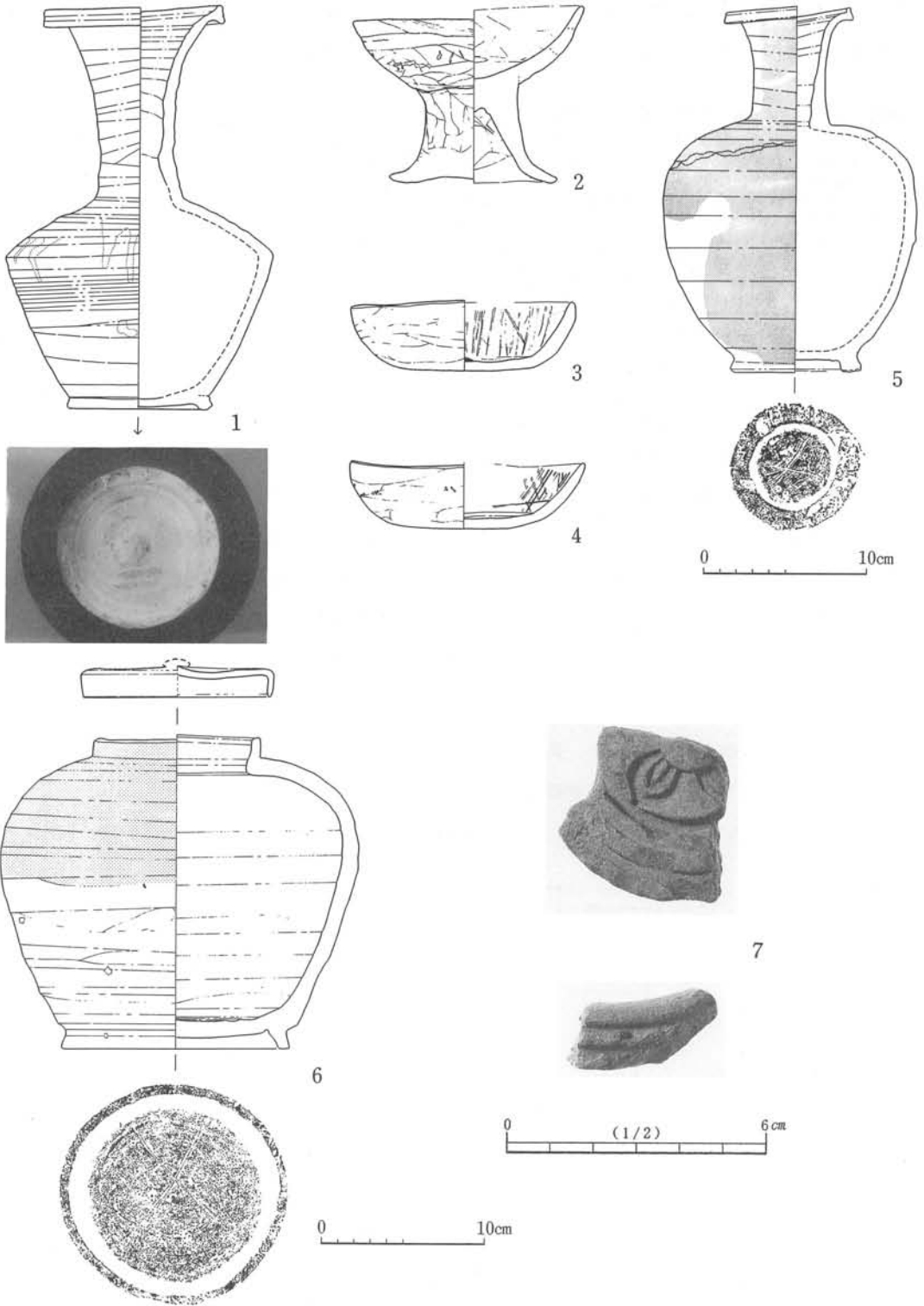
今回の調査で、特徴的な遺構としては、縄文早・前期の住居跡8軒、炉穴約120基が、A B E地区より、木棺直葬の主体部を検出した長軸約32mの前方後円墳がD地区より、また凸面布目瓦や重圏文単弁四葉蓮華文軒丸瓦No.7(直接伴う遺構は検出していない)を出土したE地区、さらに、47基の方形周溝状遺構がA C E地区で検出されている。当遺跡の調査は、来年度も実施し、墳丘をもつ数基の古墳なども存在するため、現在の段階では、遺構数等については、概略とし、遺構名も仮称として、調査完了後に統一したい。また、主な出土遺物として、No.1は、須恵器長頸壺で、底部外面に墨書が確認できる。No.1は、No.2土師器高坏と同じくA地区第7号遺構(仮称)に伴なうと考えており、No.1は、土壌より、No.2は、南側溝底部付近より出土した。当遺構は、方墳と推測されるが、墳丘や他に埋葬施設は、検出されていない。規模は、長軸15.60m、短軸14.05m、主軸方位はN-12°-Wである。土壌は、不整長円形で、長径1.30m、短径0.70m、深さ0.44m、長径方位N-15°-Wである。また、No.3、4は土師器坏で内面にヘラミガキによる格子目状暗文がわずかに確認できる。(A地区第9号遺構溝底部付近出土)。No.5は上半部に釉のかかった長頸壺(A地区第15号遺構東側溝底部付近出土)。No.6

は、蔵骨器と考えられ、上半部に釉が薄くかかる。(A地区第50号遺構北側溝覆土上部、蓋は南側溝内覆土上部出土)。

(田中 清美)



第2図 A地区第7号遺構及び土壌(仮称)実測図



第3図 上原台遺跡出土の主な遺物

9. 小 草 畑 棒 平 遺 跡

事業名 ロイヤルファーストゴルフクラブ造成に伴う埋蔵文化財調査
所在地 市原市小草畑字棒平258-3 他
調査期間 昭和61年4月1日～昭和61年6月10日
調査面積 1,170㎡

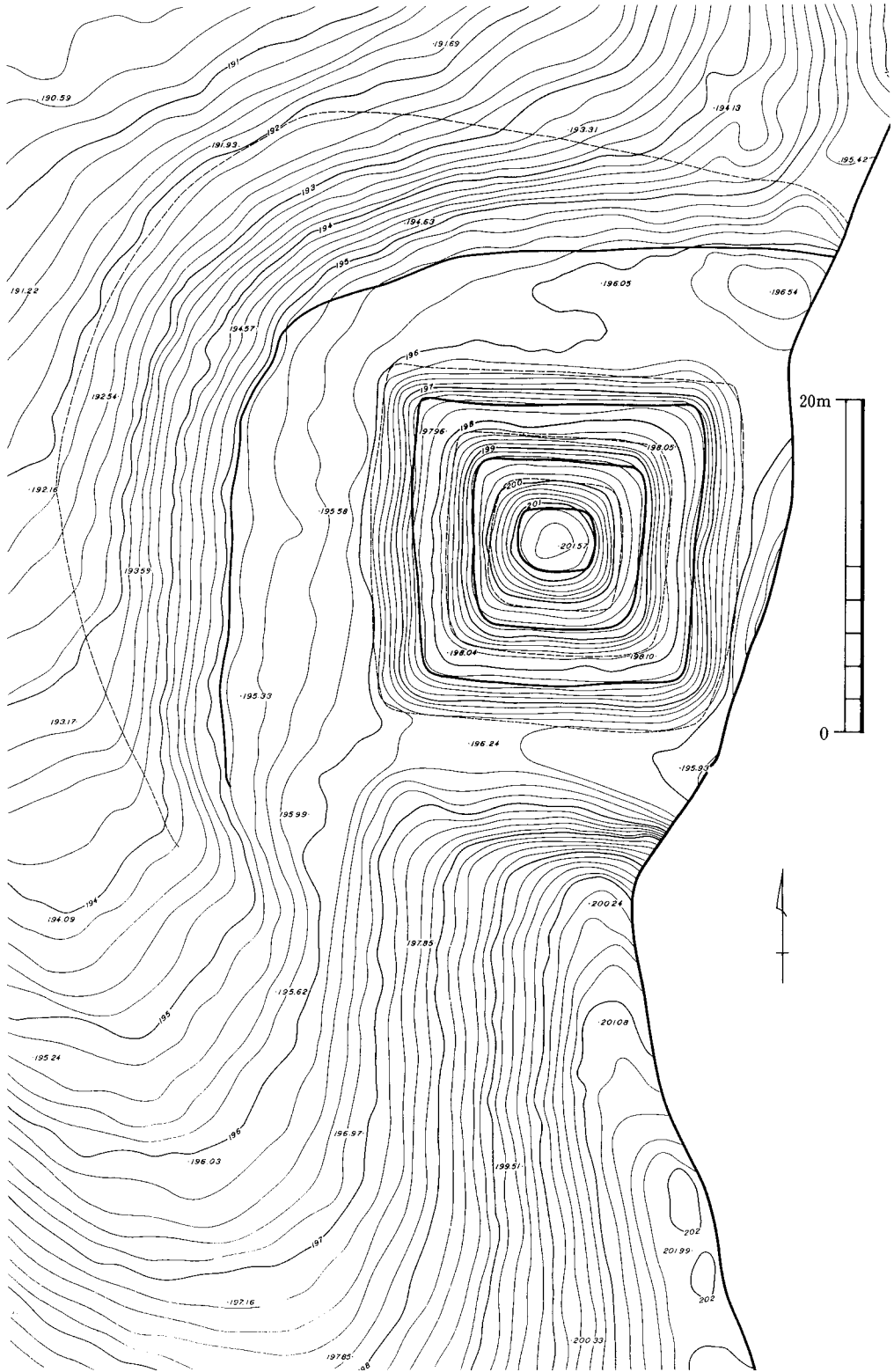
調査概要 遺跡は、養老川支流の吉沢川左岸の標高約200mの丘陵上に所在する。小草畑供養塚と、縄文時代早期の包蔵地が当初の対象であったが、確認調査の結果、縄文時代の遺物・遺構ともに確認できなかったため、小草畑供養塚のみの調査となった。

小草畑供養塚は、出羽三山信仰に係る構築物であり、頂上には、寛政四年銘の石碑が据えられていた。形態的には、市内各所に点在する三山塚同様に、三段築造されており、さらに、基底部とでも言うべき、もう一段の高まりが見られた。築造に際しては、南から延びる丘尾を切断したのちに、構築されている。盛土中からは、約500枚の寛永通宝が散らばった状態で出土し、さらに、頂部の地山面からは、同じく寛永通宝が約200枚集中して出土している。他にカラケが、盛土中から数点出土した。

市内における、三山塚については、對馬郁夫氏によって資料の調査・集成がなされている。〔「出羽三山信仰」『市原市史 別巻』1979〕その成果によれば、市原市内における三山塚の出現は、江戸時代初期の寛永年間に認められるところである。三山信仰そのものの開始は、平安時代にまで遡るものと考えられるが、広く一般の信仰の対象になっていたのは、江戸時代初期以降ということになる。ここに、幕藩体制の整備とともに進められた、宗教政策の一端をうかがうことも可能ではないだろうか。信仰といった精神活動に関わる事柄に関しては軽々に論じ難いのは言うまでもないことであるが、三山の存続基盤の維持、幕府の宗教政策、農民支配のあり方が密接に結びついたことによって、市内の各村落共同体に1つずつといった割合で三山の供養塚が構築されるに至ったと考えられる。宗教政策の転換が農民支配にどのような形で影響を及ぼしたか定かではないが、供養塚という構築物の造成を通して、労働力の集中、供養の儀式的開催等、村落構成員間の信仰的結びつきが、その結果として現れてきたかもしれない。また、度重なる飢饉に際しては、精神的拠り所であったかもしれない。

三山塚といった精神活動に関わる構築物の出現と展開を理解するのは、単純なことではないが、その歴史的背景を抜きにしては、そのあり方は把握できない。幕府・寺社・農民それぞれの利害関係の中で理解していく必要がある。細部については、整理作業を通して明らかにしていきたい。

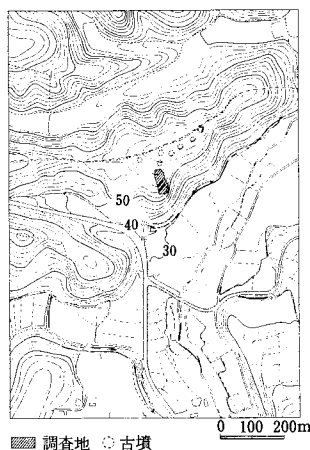
(高橋 康男)



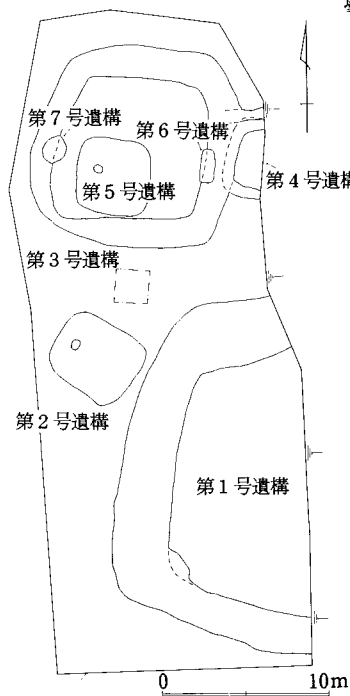
棒平遺跡・三山供養塚測量図 (S = 1 / 400)

10. 東 国 吉 川 中 遺 跡

事業名 土砂採取に伴う埋蔵文化財調査
 所在地 市原市東国吉字川中59地先他
 調査期間 昭和61年4月11日～昭和61年4月26日
 調査面積 約590㎡(本調査)

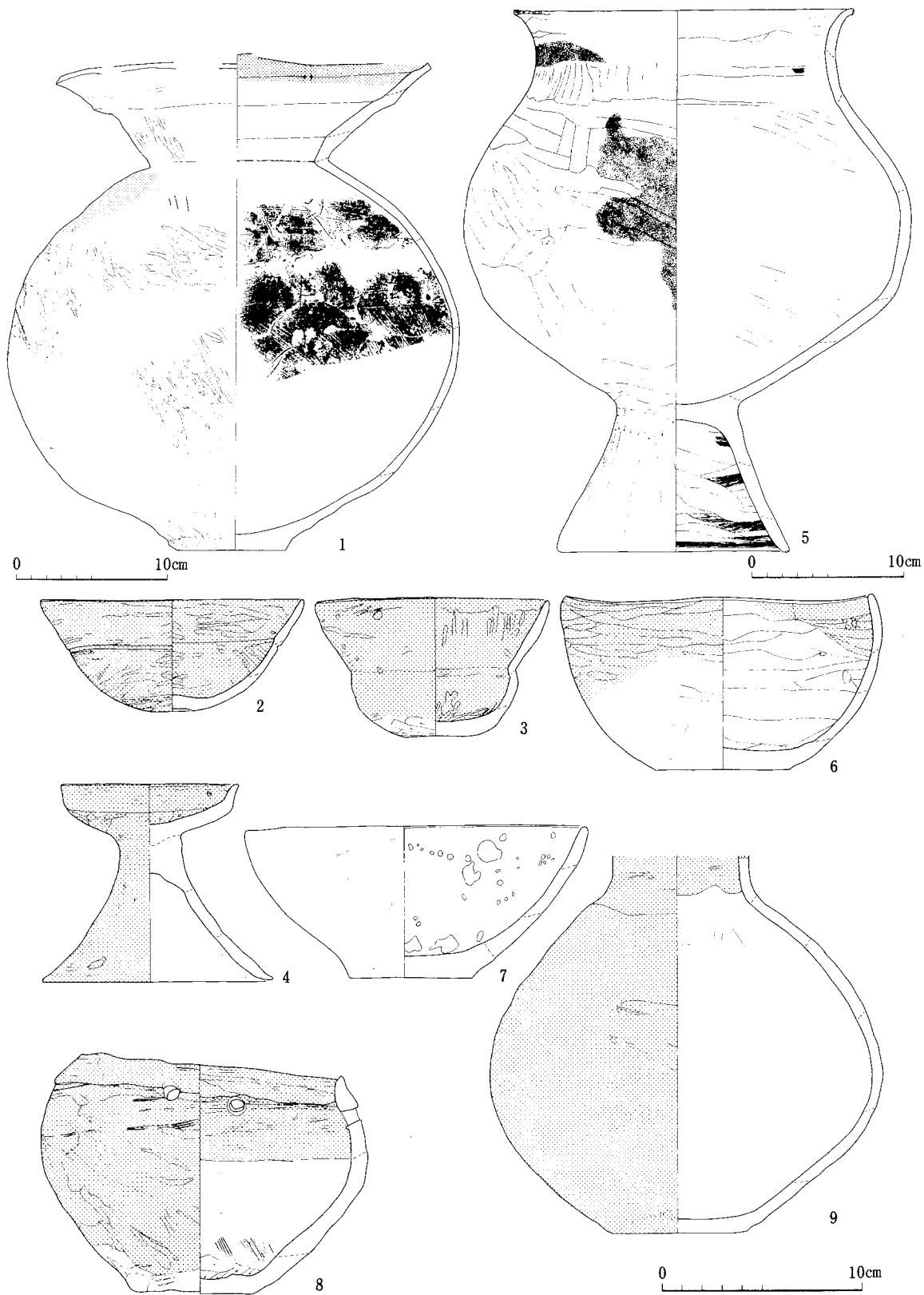


第1図 遺跡地形図



第2図 調査地区全体図

調査概要 遺跡は、市原市の北東側で、村田川の支流の西側台地上に存在する。台地は、北側と南側に小谷が入り込み、細い舌状を呈する。低地との比高は、約20m、遺跡総面積は、約35,000㎡と推定される。当台地の南側斜面の一部は、すでに土砂採取により、大きく削除されている。今回の調査も、その開発に先行するもので、台地南端部の斜面を含む約590㎡を実施した。調査前の状況は、上部が重機により攪乱されており、保存状況は良好とはいえず、又遺構全体を検出できたものも少ない。調査の結果、7基の遺構を検出した。第1号遺構は、古墳と考えられ、台地端部の既に緩やかに傾斜する部分に立地し、方形に回ると推定される壕と旧表土上の盛土がわずかに確認できた。西側の壕底部より、No.1 壺、No.2 鉢、No.3 埴、No.4 器台が出土した。いずれも赤彩がなされており、供献土器と考えている。第2、第5号遺構は、竪穴住居跡で、胴張りの隅丸方形を呈し、北側床面に炉がみられる。いずれも、床面上及び覆土中に、多くの焼土、炭粒が検出された。第5号遺構からいくつかの土器が出土し、No.5 台付甕、No.6～8 鉢、No.9 壺等である。第2号遺構からは、特に出土遺物はないが竪穴の形態等より第5号と近似する時期と考えている。第3号・第4号遺構は方形に廻る溝(第4号は一部)をもち、いわゆる方形周溝状遺構と考えている。また、第6号遺構は、第3号遺構の主体部の可能性がある。第7号遺構は、第6号遺構と対比する様な位置であるが覆土の状態等により、縄文時代の陥穴状土壇と推定している。以上の他に、縄文時代早・中・後期や弥生時代の遺物が出土し、当遺跡の内容を知る上で今回の調査は、一資料を提供したといえる。(田中 清美)



第3図 主な出土遺物

11. 郡 本 遺 跡

事業名 市原信用組合郡本支店に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市郡本4丁目103番地

調査期間 昭和62年4月9日～昭和62年4月25日

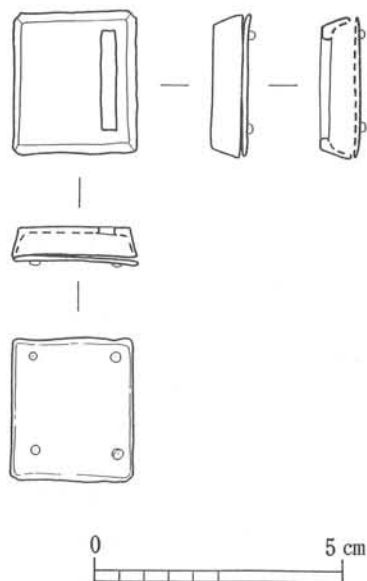
調査面積 360㎡

調査概要 郡本遺跡は標高およそ21m、北は村田川南は養老川の形成する分水界より中ば独立した、通称国分寺台の台地上に所在している。周辺地域は字名や八幡神社に散在する巨大な礎石の存在などから、古くから市原郡衙の有力推定地とされており、今回の調査区域はこの八幡神社から直線距離にしておよそ150m程の地点である。隣接地には人面土器を検出した三島台遺跡が所在し、調査面積は小規模ながら弥生時代後期の竪穴住居跡4軒、奈良・平安時代の竪穴住居5軒・土壇2基が検出されている。このうち弥生時代後期に属する竪穴住居跡は、いずれも掘り込みが浅く、検出された遺物も少ない。また奈良・平安時代の竪穴住居跡は、いずれもカマド周辺部に極めて大量の遺物が検出されており、金銅製の帯金具などもこの中に含まれている。しかしながら、掘立建柱物跡などの郡衙関連の遺構は、今回の調査において検出することは出来なかった。

(木對 和紀)



金銅製帯金具出土状況



帯金具実測図

12. 白 船 城 跡

所在地 市原市山木字城ノ内1258-1番地 他

調査期間 昭和61年5月16日～昭和63年6月25日

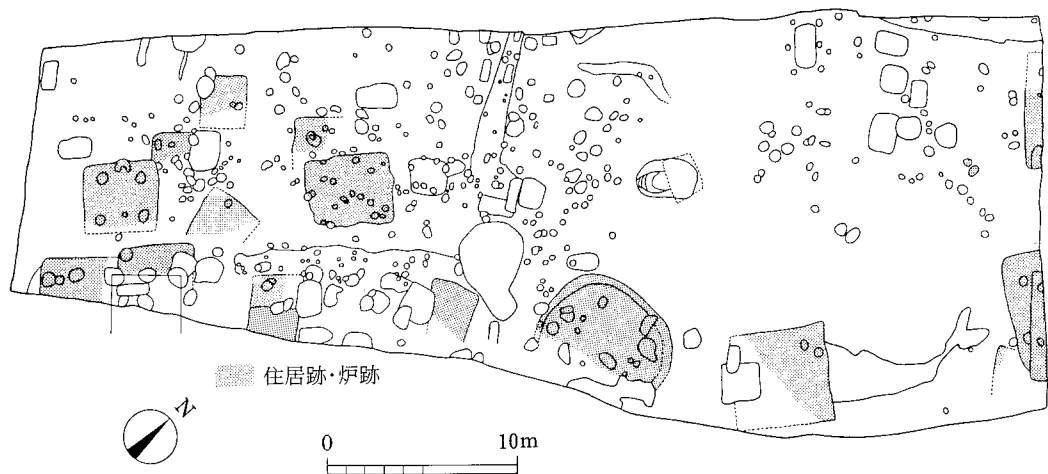
調査面積 1,126.23㎡

調査概要 白船城跡は、戦国時代に構築されたとみられる平山城形態の城跡であり、標高20.6m、現水田面との比高差約15mを測る独立丘状の台地に立地している。今回調査した地点は台地中央部の東側部分の標高約18m前後を測る平坦部であり、城郭の構造からみれば二の丸に相当する部分と考えられる。

調査地点は、城構築時或は後世に削平されたのではないかと考えられ、このため遺構もかなりの削平を受けており、検出した遺構の依存状況は極めて悪く、遺構のプランや性格、数量等については不明な点がある。

発掘調査によって検出された遺構は、弥生時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡13軒、掘立柱建物1棟、土壇3基、中世～近世の土壇30基、地下式塋1基、掘立柱建物1棟、溝4条が確認できたが、この数値以上の遺構が存在していたものと考えられ、多数のピット、土坑状の遺構の中には住居跡の柱穴、掘立柱建物の柱穴等があるものと考えられるが、明確に捉えることはできない。また、中世から近世にかけての遺構の中には白船城に関係する遺構も存在すると思われるが、明らかにすることはできなかった。出土遺物としては、弥生時代中期の土器、奈良・平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、中世～近世の陶磁器、土錘等がある。

(石田 広美)



白船城址遺構配置図

13. 千 草 山 遺 跡

事業名 文化施設用地造成工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満1,475地先 他

調査面積 2,400㎡

調査期間 昭和61年7月15日～昭和61年8月30日

調査概要 当調査地は、昭和60年度に調査を実施した地域の南西側隣接地で、千草山廃寺跡と言われる地域の東側にあたる。検出した遺構は、先土器時代の石器ユニット(VI層)が2ヶ所、縄文時代早期土器集中地点1ヶ所、中期竪穴住居跡1軒(昭和60年度調査の約南半分)、土壇2基、古墳時代竪穴住居跡2軒。奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、地下式土壇1基、方形周溝状遺構1基、土壇1基である。遺構は、古墳時代と奈良・平安時代の竪穴住居跡が1ヶ所切り合っている以外は、散在して存在する。また、調査地区の東側は、小谷に向かって傾斜しており、標準Ⅱ層中のテフラが厚く堆積する。主な出土遺物は、古墳時代竪穴住居跡より、金銅製耳環1点、奈良・平安時代竪穴住居跡より、金銅製座金具1点などがある。今回の調査は、千草山遺跡では、4地点目にあたり、本報告は、昭和60年度分に含めて行う。(田中 清美)



第1図 調査地区位置図



第2図 調査地区全体図

14. 軍 谷 遺 跡

事業名 ザ・カントリークラブ上郷コース新設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市栢橋620-12番地他

調査期間 昭和61年12月1日～昭和62年2月3日(確認調査)

昭和62年1月16日～昭和62年2月3日(本調査)

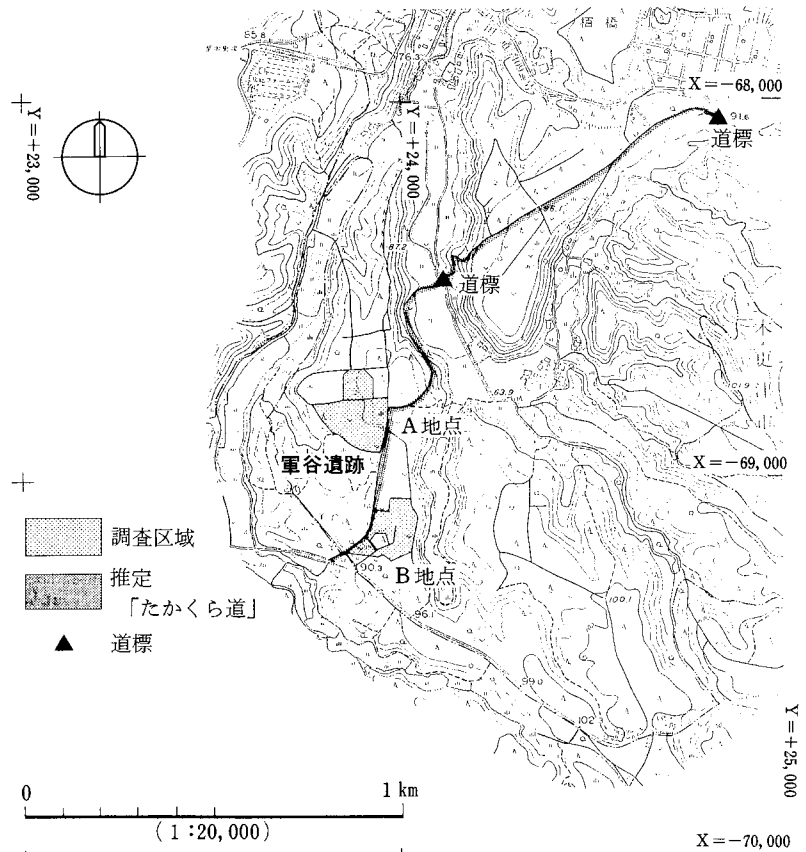
調査面積 36,700㎡のうち3,670㎡(確認調査)、970㎡(本調査)

調査概要 軍谷遺跡は養老川の中流域左岸に溜ぐ戸田川支流の最奥部、南から北に向かって湾曲しながら伸びる長さ1,400m、幅100m～400m、標高90m前後の細長い舌状台地に位置する。調査前の現況は、山林・荒無地・畑であった。調査はゴルフ場新設工事に先立つものであり、2×4mのグリッドを基本とする遺構確認調査の結果、遺跡の2/3を占める畑はすでにハードルーム層以下に達する削平を受けており、掘り込みの深い土壌やおとし穴等の遺構以外は、すでに消滅してしまったものと考えられる。確認調査の成果に基づき、970㎡が本調査の対象地域となった。

本調査の結果、下記の遺構が検出された。
縄文時代土壌3・おとし穴3。

中～近世 溝3・
道路状遺構1。

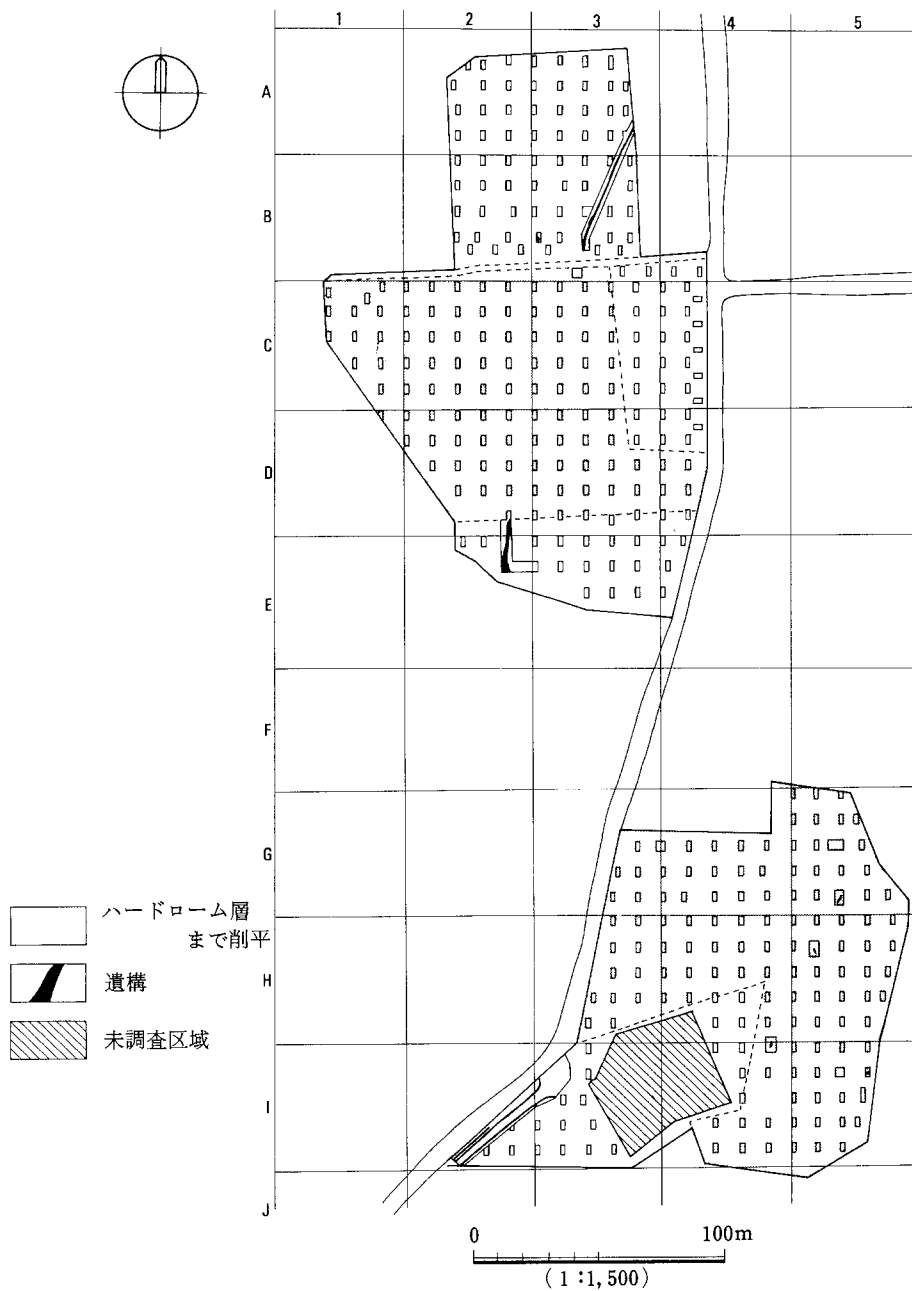
このうち道路状遺構は、調査区域B地点の南側から、現道に沿って検出されている。付近に道標が残っており、刻まれている文字から判断すると、現道は「たかくらみち」と推定される。このことは付近の古老の話によっても語り継がれ



第1図 軍谷遺跡周辺地形図

ており、おそらくこの現道は左右に若干移動しながらも存続してきたものと推定された。

(木對 和紀)



第2図 軍谷遺跡遺構配置図

15. 姉崎宮山遺跡

事業名 姉崎神社緊急確認調査
所在地 市原市姉崎2278・2282-2
調査面積 200㎡
調査期間 昭和61年12月1日～昭和62年3月20日

調査概要 調査は、昭和60年に焼失した姉崎神社社殿の新築に伴い実施された。

遺跡は、西に椎津川、北に現状では埋立地をはさみ東京湾を望む台地上に位置している。この周囲には天神山古墳、二子塚古墳をはじめ、全長60mから100mをこえる大型の前方後円墳が分布し、古墳時代においては房総でも拠点的な地域と考えられる。また姉崎神社はいわゆる式内社であり、その成立、あるいは古墳群との関連が注視された。

調査によって、弥生時代後期および古墳時代後期の竪穴住居跡が建替を含め9軒が検出された。しかし、この地が長期にわたって利用され、またソフトロームがほとんど遺存していなかったことなど、他にも存在した可能性がある。また、この竪穴住居跡と重複し、建物を含む無数の掘立柱跡が検出された。出土遺物が少なく、時期、遺構の性格など不明確な点が多いが、社殿、神社に関連する施設を含む可能性も考えられ、姉崎神社の成立について若干の知見を与えてくれるものと考えている。

(大村 直)



16. ぶん ざく い せき 文 作 遺 跡

事業名 農業公社牧場設置事業(草地造成)に伴う埋蔵文化財調査(千葉県農業開発公社)・文作遺跡発掘調査(市原市)

所在地 市原市葉木字文作325番地 他

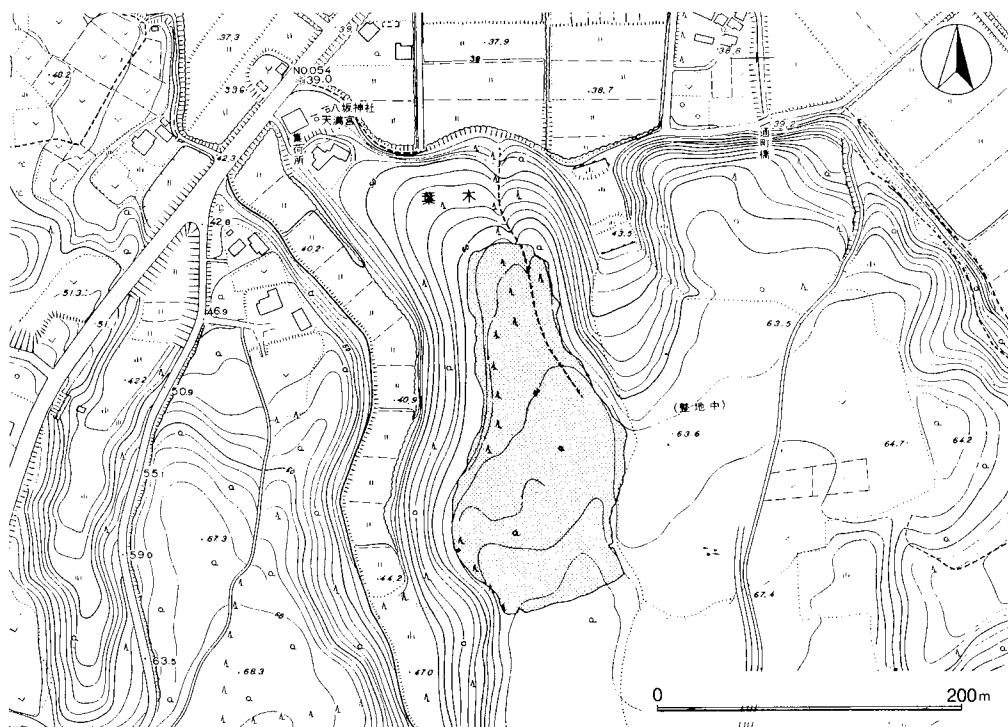
調査面積 18,500㎡のうち1,850㎡

調査期間 昭和62年2月1日～昭和62年3月31日

調査概要 調査は、社団法人千葉県農業開発公社営の草地造成に先行して実施されたものであり、本年度は確認調査が行われた。

本遺跡は、村田川支流、神崎川上流の小支谷にはさまれた標高62～67mの台地上に位置している。調査は、公共座標にもとづく10m方眼に対して2×4mのグリッドを設定し、これを基準として全体の10%にあたる1,850㎡に対して実施した。この結果、古墳時代終末期から平安時代にいたる竪穴住居跡50軒以上、掘立柱建物1棟以上、溝1条が確認され、全域に対して本調査が行われることとなった。

なお昭和62年度に実施された本調査では、予想をうわまわる竪穴住居118軒、掘立柱建物34棟などが確認された。掘立柱建物については、ある程度の可能性が当初より考えられていたが、竪穴住居跡については、重複住居をとらえきれなかったことに起因する。(大村 直)



17. 上 大 堀 遺 跡

事業名 都市計画道路君塚小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査

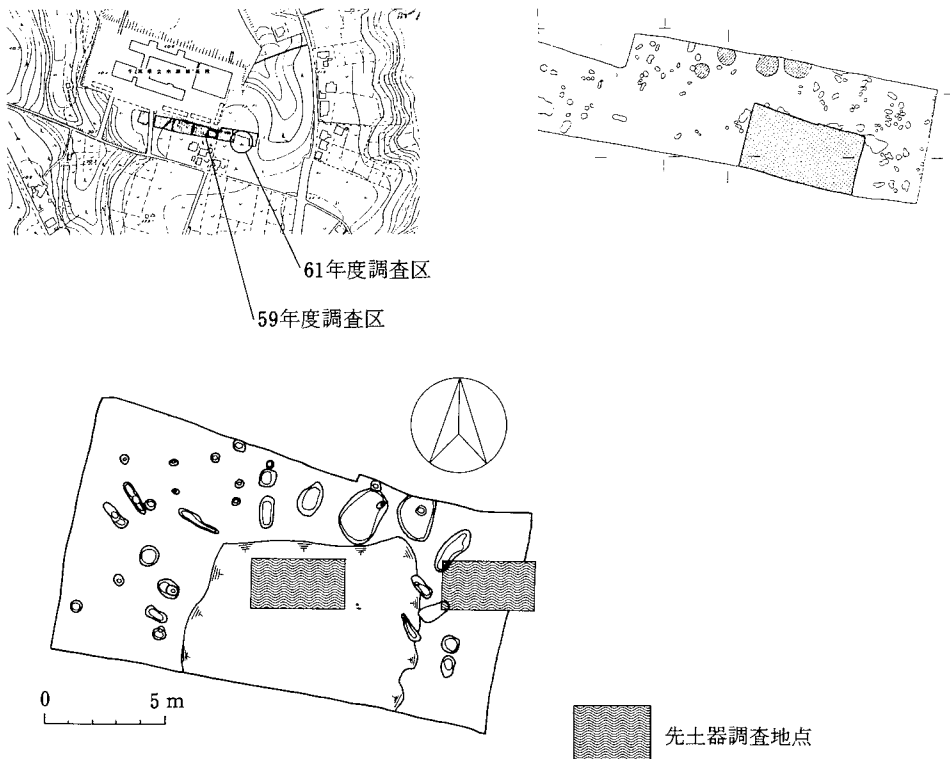
所在地 市原市能満字上大堀1531-107 他

調査期間 昭和62年3月10日～昭和62年3月31日

調査面積 200㎡

調査概要 今年度の調査は、59年度調査時に未買収地として残された地域で、周辺は既に調査済である。59年度の調査では、竪穴住居跡2軒・落し穴跡6基・土壇状遺構6基の他性格不明のピット多数を検出している。遺物には、縄文時代中期加曾利E式土器および石器などを出土しており、住居跡2軒も中期の所産である。今回の調査区の北東側隣接地には59年度時において礫が集中して出土した地点もあり、今回の調査でも当然のごとく礫集中地点の確認が期待されていたが、調査の結果、調査区の中央に大きな攪乱墳が開き周辺に縄文中期加曾利E式土器を出土し、土壇3基・性格時期とも不明の落ち込みを検出するに留まった。また、下層の旧石器の調査を行い第5層よりチップ1点の他小礫2点を出土したに留まり、礫などの集中地点は確認できなかった。

(浅利 幸一)



昭和61年度調査区遺構配置図

IV 昭和61年度 受贈図書一覧

書 名	寄 贈 者	受 入 日
田野平遺跡	日本大学文学部史学研究室	61. 4. 2
吹上原横穴墓群	同 上	〃
滋賀埋文ニュース 第72号	滋賀県埋蔵文化財センター	61. 4. 3
名古屋市博物館だより 第49号	名古屋市博物館	〃
中村遺跡	田中新史	61. 4. 4
下新井遺跡	同 上	〃
千葉県の特種教育 昭和60年度版	千葉県教育委員会	〃
群馬県における地方史研究の動向「考古」(抜刷)	相京建史	〃
市原市の指定文化財	市原市教育委員会	〃
市原の歴史と文化財	同 上	〃
特別展 かお 展示図	埼玉県立博物館	〃
特別展 かお(パンフレット)	同 上	〃
世田谷区石造遺物調査報告書 I	東京都世田谷区立郷土資料館	〃
梶原南遺跡発掘調査概要第2次調査	高槻市立埋蔵文化財調査センター	61. 4. 5
余山貝塚資料図譜	国学院大学考古学資料館	〃
わらびて No.29	岩手県立埋蔵文化財センター	〃
日本考古学における層位論の基礎的研究	千葉大学文学部考古学研究室	〃
日本全国書誌 週刊版 No.1, 535	国立国会図書館	〃
東北大学埋蔵文化財調査年報 1	東北大学埋蔵文化財調査委員会	61. 4. 9
浜松市半田山遺跡(IV)発掘調査報告書	浜松市博物館	61. 4. 11
埋文ニュース 18. 19. 22	宮本敬一	〃
伊勢崎市史編さん資料-伊勢崎の板碑-	相川考古館	61. 4. 15
大日本地名辞書	宮本敬一	〃
日本地理志科	同 上	〃
特別展「海と船」(パンフレット)	袖ヶ浦町郷土博物館	61. 4. 16
愛知県埋蔵文化財情報 昭和59年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター	61. 4. 18
静岡県埋蔵文化財調査研究所 年報 I	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	61. 4. 18
原川遺跡 昭和59年度発掘調査概報	同 上	〃
静岡埋蔵文化財調査研究所調査報告 第3集	同 上	〃
同 上 第4集	同 上	〃
沼津市博物館紀要 10	沼津市歴史民俗資料館	61. 4. 21
東北大学考古学研究報告 1	東北大学文学部考古学研究所	〃
研究紀要 1	山梨県立考古博物館	〃
研究紀要 2	同 上	〃
展示概説	同 上	〃
山梨の中世陶磁 第3回特別展	同 上	〃
八反割A遺跡発掘調査報告	市川市教育委員会	61. 4. 23
昭和60年度 市川東部遺跡群発掘調査報告	同 上	〃
史跡曾谷貝塚保存管理計画書	同 上	〃
銚子の文学碑めぐり	銚子市教育委員会	61. 4. 24
枚方市文化財年報 VI	(財)枚方市文化財研究調査会	〃
津田トッパナ遺跡現地説明会資料	同 上	〃

書名	寄贈書	受入日
浦和市立郷土博物館館報 第27号	浦和市立郷土博物館	61. 4. 25
京都府埋蔵文化財情報 第17号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
同上 第18号	同上	"
松本市島立南栗遺跡	松本市教育委員会	"
松本市竹淵・南原遺跡	同上	"
松本市梶海渡遺跡	同上	"
松本市島内遺跡群上平瀬遺跡	同上	"
推定信濃国府一第四次調査報告書一	同上	"
松本市蓮台遺跡	同上	"
松本市岡田西裏遺跡	同上	"
松本市宮渕本村遺跡(遺構編)	同上	"
松本市島立条里的遺構	同上	"
市原地方史研究 第11号	市原市教育委員会	"
同上 第12号	同上	"
史館 第18号	大村 直	61. 4. 28
研究紀要 3	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	61. 4. 30
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ 昭和60年度	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	61. 5. 2
特別展 弥生人の四季	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	61. 5. 6
飯塚遺跡群発掘調査報告書 第Ⅰ分冊	八日市場市教育委員会社会教育課	"
同上 第Ⅱ分冊	同上	"
同上 第Ⅲ分冊	同上	"
同上 第Ⅳ分冊	同上	"
ひろしまの遺跡	広島県埋蔵文化財調査センター	61. 5. 9
泉州の遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	"
関西国際空港建設に伴う阪南町内埋蔵文化財分布調査報告書	同上	"
現地説明会資料4	同上	"
峰考古 第6号	宇都宮大学考古学研究会	61. 5. 10
秋田城跡 昭和60年度秋田城跡発掘調査概報	秋田城跡発掘調査事務所	"
滋賀埋文ニュース第73号	滋賀県埋蔵文化財センター	"
東京都稲城市寺谷津遺跡群発掘調査報告書	玉川文化財研究所	"
横浜市戸塚区竹鼻遺跡発掘調査報告書	同上	"
横浜市磯子区峯遺跡群発掘調査報告書	同上	"
横浜市緑区東方横穴墓群第2次調査発掘報告書	同上	"
西安半坡	南原フサエ	61. 5. 12
昭和59年度市立市川考古博物館年報No.13	市立市川考古博物館	"
下総国分尼寺跡Ⅳ昭和60年度調査報告	同上	"
倉敷考古館研究集報第19号	(財)倉敷考古館	61. 5. 13
松戸市内石造文化財所在調査概報2	松戸市文化ホール	61. 5. 15
八王子城跡Ⅷ-1985年度確認調査概報一	八王子市教育委員会社会教育課文化財係	"
馬場谷戸南遺跡	同上	"
八王子市上恩方町力石遺跡発掘調査報告書	同上	"
平塚市埋蔵文化財シリーズ1	平塚市遺跡調査会	"
同上 2	同上	"
考古学資料館紀要第2輯	国学院大学考古学資料館	61. 5. 16
高槻市文化財調査概要Ⅹ	高槻市立埋蔵文化財調査センター	61. 5. 19

書名	寄贈書	受入日
下総国四街道地域の遺跡調査報告書	中野遺跡調査団	61. 5. 20
日本考古学研究所集報Ⅷ	日本考古学研究所	"
資料館報No.16	埼玉県立さきたま資料館	61. 5. 21
埼玉古墳群発掘調査報告書第四集	同上	"
浜松市博物館だより Vol. 5-1 No.14	浜松市博物館	61. 5. 22
文化財學報 第四集	奈良大学文学部文化財学科	61. 5. 26
鳥取県八頭郡船岡町奈免羅西の前遺跡 (財)元興寺文化財研究所通信No.20	鳥取県八頭郡船岡町教育委員会事務局 (財)元興寺文化財研究所	61. 5. 26 "
同上 No.23	同上	"
大田区立郷土博物館だより第13号	大田区立郷土博物館	61. 5. 26
同上 第14号	同上	"
特別展 一時を知るこよみと和時計一 博物館ノートNo.28	同上	"
同上 No.29	同上	"
同上 No.30	同上	"
早大所沢文化財調査室月報No.10	早大所沢校地文化財調査室	61. 5. 27
同上 No.11	同上	"
同上 No.12	同上	"
袋西浦	東北新幹線中里遺跡調査会	61. 5. 27
千葉県立中央図書館雑誌目録	千葉県立中央図書館	61. 5. 28
茨城県教育財団文化財調査報告第30集(上)(下)	(財)茨城県教育財団	61. 5. 29
同上 第31集	同上	"
同上 第32集	同上	"
同上 第33集	同上	"
同上 第34集	同上	"
同上 第35集	同上	"
同上 第36集	同上	"
同上 第37集	同上	"
年報5 昭和60年度	同上	"
松原市遺跡発掘調査概要 昭和60年度	松原市教育委員会	"
宿場大内(パンフレット)	同上	61. 6. 2
八戸市博物館研究紀要第2号	八戸市博物館	"
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第6集(1)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
同上 第6集(2)	同上	"
鳥取埋文ニュースNo.14	鳥取県埋蔵文化財センター	"
鳥取県日野郡溝口町下山南通遺跡	同上	"
鳥取県日野郡江府町佐川遺跡群	同上	61. 6. 2
千葉県埋蔵文化財分布地図(2)	千葉県教育庁文化課	"
千葉県富津市内裏塚古墳群測量調査報告書	同上	"
千葉県小食土廃寺跡確認調査報告書	同上	"
栄町埴生郡衙跡確認調査報告書	同上	"
千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書	同上	"
千葉県中近世城跡研究調査報告書第6集	同上	"
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第1号	秋田県埋蔵文化財センター	61. 6. 3
秋田県埋蔵文化財センター年報4 昭和60年度	同上	"

書名	寄贈書	受入日
さいたま(観光マップ)	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	61. 6. 4
要覧	同上	"
特別展 古代の祭祀(パンフレット)	同上	"
古代の祭祀(図録)	同上	"
東洋文化財研究所小報創刊号	(財)広域社会福祉会東洋文化財研究所	"
富沢水田遺跡	同上	"
調布市郷土博物館だよりNo.22	調布市郷土博物館	61. 6. 5
名古屋市博物館だより50	名古屋市博物館	61. 6. 6
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第14集	山梨県埋蔵文化財センター	"
同上 第16集	同上	"
山武郡南部地区文化財センター発掘調査報告書第1集	(財)山武郡南部地区文化財センター	61. 6. 6
(財)山武郡南部地区文化財センター年報No.1 昭和59年度	同上	"
山武郡南部地区文化財センター発掘調査報告書第2集	同上	"
日立市郷土博物館紀要第6号	日立市郷土博物館	61. 6. 7
日立市郷土博物館収蔵資料目録第5集	同上	"
日立市郷土博物館展示あんない	同上	"
昭和59年度市立市川考古博物館年報	市立市川考古博物館	"
下総国分尼寺跡IV昭和60年度調査報告	同上	"
市立市川考古博物館展示解説	同上	"
弥生人の四季	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	61. 6. 9
滋賀埋文ニュース第74	滋賀県埋蔵文化財センター	61. 6. 10
泉北考古資料館だよりNo.23	大阪府立泉北考古資料館	61. 6. 11
同上 No.24	同上	"
同上 No.25	同上	"
安房神社並びに安房神社周辺特定地区文化財総合調査概報	千葉県文化財センター	"
成田山霊光館図録第4集	成田山霊光館	61. 6. 12
成田山霊光館報なりたNo.36	同上	"
奈良国立文化財研究所年報1985	奈良国立文化財研究所	61. 6. 13
三良坂町の原始・古代と岡田山第3号古墳発掘調査の記録	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	61. 6. 14
宮丘1遺跡	北海道文化財研究所	61. 6. 16
館報一第14号一	袖ヶ浦町郷土博物館	61. 6. 18
八雲立つ風土記の丘No.78	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	"
(財)元興寺文化財研究所通信No.24	(財)元興寺文化財研究所	"
針江川北遺跡	(財)滋賀県文化財保護協会	61. 6. 19
坂田郡山東町内遺跡詳細分布調査報告書	同上	"
伊吹町文化財調査報告書1	同上	"
昭和59年度滋賀県文化財調査年報	同上	"
高野遺跡発掘調査報告書	同上	"
県道大津能登川長浜線交通安全施設工事関連埋蔵文化財調査報告書II	同上	"
長野県埋蔵文化財ニュースNo.16	(財)長野県埋蔵文化財センター	61. 6. 20
長野県埋蔵文化財センター年報2	同上	"
天祖神社東遺跡	練馬区教育委員会社会教育課文化財保護係	61. 6. 23
竪穴式石室の地域性の研究	大阪大学文学部国史研究室	"
清里・長久保遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
福島県文化財調査報告書第160集	(財)福島県文化センター	"

書名	寄贈書	受入日
福島県文化財調査報告書第161集	(財)福島県文化センター	61. 6. 23
同 上 第162集	同 上	"
同 上 第163集	同 上	"
同 上 第164集	同 上	"
同 上 第165集	同 上	"
同 上 第166集	同 上	"
同 上 第170集	同 上	"
市原地方史研究第14号	市原市文化課	61. 6. 25
博物館建設の記録	栃木県立博物館	61. 6. 26
第15回企画展ほりだされた下野の古代	同 上	"
内ノ倉山横穴群発掘調査報告書	日南町教育委員会	61. 6. 27
草津川橋梁部埋蔵文化財試掘調査概要報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	61. 6. 30
上屋遺跡発掘調査報告書	同 上	"
埋蔵文化財試掘調査報告書-草津市志那、下笠町地先-	同 上	"
(財)愛知県埋蔵文化財センター年報昭和60年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター	61. 7. 2
浄真寺文化財総合調査報告	世田谷区立郷土資料館	61. 7. 5
世田谷女性史(中)	同 上	"
昭和60年度滋賀県遺跡地図	(財)滋賀県文化財保護協会	"
滋賀埋文ニュース第75号	滋賀県埋蔵文化財センター	61. 7. 7
白井町石造物調査報告書第1集	白井町教育委員会社会教育課	"
市原市史下巻	市原市文化課	"
古作貝塚-遺跡確認調査報告-	船橋市遺跡調査会	61. 7. 8
東北新幹線建設工事に伴う遺跡発掘調査概要	東北新幹線赤羽地区遺跡調査会	61. 7. 9
昭和60年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告	市川市教育委員会社会教育部文化課	61. 7. 10
草戸千軒町遺跡-第33次発掘調査概要-	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	61. 7. 11
草戸千軒調査研究ニュースNo.142~153	同 上	"
鹿島町の文化財第35集	鹿島町教育委員会	"
同 上 第36集	同 上	"
同 上 第41集	同 上	"
同 上 第46集	同 上	"
同 上 第47集	同 上	"
神奈川県埋蔵文化財調査報告28	神奈川県教育庁社会教育部	61. 7. 12
埋蔵文化財愛知No.5	(財)愛知県埋蔵文化財センター	61. 7. 14
久留米市文化財調査報告書第46集	久留米市教育委員会	"
同 上 第48集	同 上	"
東京都埋蔵文化財センター調査報告第7集第1分冊	(財)東京都埋蔵文化財センター	61. 7. 14
同 上 第7集第2分冊	同 上	"
同 上 第7集第3分冊	同 上	"
同 上 第7集第4分冊	同 上	"
東京都埋蔵文化財センター研究論集IV	同 上	"
博物館だよりNo.23	群馬県立歴史博物館	61. 7. 16
長岡京市文化財調査報告書第17冊	長岡京市教育委員会	"
長岡京市埋蔵文化財センター年報昭和59年度	長岡京市文化財センター	"
浜松市博物館だよりNo.15	浜松市博物館	61. 7. 18
調布市郷土博物館テーマ展-多摩川-	調布市郷土博物館	"

書名	寄贈書	受入日
季刊考古学第16号	雄山閣出版株式会社	61. 7. 21
港区三田濟海寺長岡藩主牧野家墓所発掘調査報告書	港区教育委員会社会教育課文化財係	"
麻布台一丁目郵政省飯倉分館構内遺跡	同上	"
川崎市麻生区岡上小学校遺跡調査略報	日本大学文理学部史学研究室	61. 7. 22
浦和市遺跡調査会報告書第49集	浦和市遺跡調査会	61. 7. 23
同上 第61集	同上	"
同上 第63集	同上	"
同上 第64集	同上	"
同上 第68集	同上	"
同上 第69集	同上	"
開館3周年記念特別企画展縄文人の暮らし	長野市立博物館	"
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報一昭和59年度一	千葉県教育庁文化課	"
金剛寺遺跡発掘調査報告書I	(財)滋賀県文化財保護協会	61. 7. 24
文化財教室シリーズ〔83〕	同上	"
同上 〔84〕	同上	"
滋賀文化財だよりNo.107	同上	"
同上 No.108	同上	"
同上 No.109	同上	"
同上 No.110	同上	"
河川シリーズNo. 8	千葉県環境部水質保全課	61. 7. 25
亀山遺跡	広島県立埋蔵文化財センター	61. 7. 26
備後国府跡	同上	"
企画展城下町のやきもの	愛知県陶磁資料館	61. 7. 28
松戸市文化財調査報告第12集	松戸市教育委員会	61. 7. 29
貝塚博物館紀要第13号	千葉市立加曽利貝塚博物館	61. 7. 31
長野県埋蔵文化財ニュースNo.17	(財)長野県埋蔵文化財センター	"
八王子市埋蔵文化財年報1985年度	八王子市教育委員会社会教育課文化財係	"
郡山東部 6	郡山市教育委員会社会教育課	"
県営ほ場整備事業関連発掘調査概報	同上	"
巳六段遺跡発掘調査報告書	同上	"
北山田2号噴発掘調査概報	同上	"
北山田遺跡発掘調査概報	同上	"
清水台遺跡一第9次発掘調査概要一	同上	"
下永田B遺跡	同上	"
考古遺物資料集第6集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	61. 8. 1
紀要VI	同上	"
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集	同上	"
同上 第95集	同上	"
同上 第96集	同上	"
同上 第97集	同上	"
同上 第98集	同上	"
同上 第99集	同上	"
同上 第100集	同上	"
同上 第101集	同上	"
同上 第102集	同上	"

書 名	寄 贈 書	受 入 日
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第103集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	61. 8. 1
滋賀埋文ニュース第76号	滋賀県埋蔵文化財センター	61. 8. 4
鳥取埋文ニュースNo.15	鳥取県埋蔵文化財センター	"
名古屋市博物館だより51	名古屋市博物館	61. 8. 7
駒木台遺跡・坊田遺跡発掘調査報告書	多古町教育委員会	"
大原遺跡	同 上	"
林遺跡	同 上	"
武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅶ	国分寺市教育委員会	"
国分寺市文化財調査報告第20集	同 上	"
年報 Vol. 1	長野市立博物館	61. 8. 14
年報 Vol. 3	同 上	"
長野市の埋蔵文化財第14集	同 上	"
同 上 第15集	同 上	"
第11回企画展―台所と什器の世界―	同 上	"
第13回企画展―鏡・文化―	同 上	"
市原市史中巻	市原市教育委員会	61. 8. 15
地球をあんまり掘りまくってこわさないで	福岡市埋蔵文化財センター	61. 8. 18
小田原市文化財調査報告書第19集	小田原市教育委員会	61. 8. 19
同 上 第21集	同 上	"
群馬県立歴史博物館年報第7号	群馬県立歴史博物館	61. 8. 20
千葉県の歴史 27	千葉県企画部県史編さん室	61. 8. 22
同 上 28	同 上	"
同 上 29	同 上	"
同 上 30	同 上	"
同 上 31	同 上	"
わらびてNo.31	岩手県立埋蔵文化財センター	61. 8. 26
文化財教室シリーズ85	(財)滋賀県文化財保護協会	"
滋賀文化財だよりNo.111	同 上	"
湖岸堤矢橋工区埋蔵文化財試掘調査概要報告書	同 上	"
井戸遺跡(第2次)発掘調査報告書	同 上	"
昭和61年度出土文化財巡回展示会解説書	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第4集	同 上	"
埋文とやま第15号	富山県埋蔵文化財センター	61. 8. 27
調布市郷土博物館だよりNo.23	調布市郷土博物館	61. 8. 29
ひろしまの遺跡第25号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	61. 8. 30
いわき市埋蔵文化財調査報告第13冊	福島県いわき市教育委員会	"
とまこまい埋文だよりNo.3	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	61. 9. 1
同 上 No.4	同 上	"
同 上 No.5	同 上	"
苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅶ	同 上	"
苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財分布調査報告書	同 上	"
苫小牧市埋蔵文化財調査センター概要	同 上	"
千葉県文化財センター研究紀要10	(財)千葉県文化財センター	61. 9. 3
研究連絡誌第15、16号	同 上	"
市原市門脇遺跡	同 上	"

書名	寄贈書	受入日
君津市岩手遺跡・岩出城跡	(財)千葉県文化財センター	61. 9. 3
多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書	同上	"
主要地方道成田松尾線Ⅲ	同上	"
主要地方道成田松尾線Ⅳ	同上	"
栗源町外部台遺跡	同上	"
千葉市辺田山谷遺跡	同上	"
千葉都市モノレール関係埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	"
加曽利貝塚	同上	"
富里町南内野遺跡	同上	"
千葉市荒屋敷北貝塚、谷津上、須摩堀遺跡	同上	"
千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	同上	"
常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ	同上	"
常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅴ	同上	"
酒々井町伊篠白幡遺跡	同上	"
東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ	同上	"
八千代市ヲサル山遺跡	同上	"
千原台ニュータウンⅢ	同上	"
千葉市中雑遺跡	同上	"
山陰地域研究	島根大学附属図書館	"
我孫子市埋蔵文化財報告書第7集	我孫子市教育委員会	61. 9. 5
同上 第8集	同上	"
県指定有形文化財府中吉神社解体修理工事設計図	市原市文化課	"
滋賀埋文ニュース第77号	滋賀県埋蔵文化財センター	61. 9. 8
埋もれた文化財の話	同上	"
浦和市立郷土博物館館報	浦和市立郷土博物館	"
青銅器発掘展図録	北九州市立考古博物館	"
北九州市立考古博物館 年報1	同上	"
群馬県立歴史博物館紀要第7号	群馬県立歴史博物館	61. 9. 9
文化財教室シリーズ(86)	(財)滋賀県文化財保護協会	61. 9. 11
京都府埋蔵文化財情報第19号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	61. 9. 12
田名稻荷山遺跡調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	61. 9. 16
神奈川県立埋蔵文化財センター年報5	同上	"
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告12	同上	"
埋蔵文化財調査室年報2	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	"
北九州市埋蔵文化財調査報告書第44集	同上	"
同上 第45集	同上	"
同上 第46集	同上	"
同上 第47集	同上	"
同上 第48集	同上	"
同上 第49集	同上	"
同上 第50集	同上	"
同上 第51集	同上	"
同上 第52集	同上	"
同上 第53集	同上	"
成田市の文化財第17集	成田市教育委員会	61. 9. 18

書名	寄贈書	受入日
愛知県陶磁資料館研究紀要 5	愛知県陶磁資料館	61. 9. 20
現地説明会資料 5	(財)大阪府埋蔵文化財協会	61. 9. 24
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第 4 輯	同上	"
同上 第 5 輯	同上	"
郷土の文化財 3	(財)茂原市文化財センター	61. 9. 25
貝塚つうしん	貝塚通信社	"
シンポジウム「月影式」土器について—報告編—	田中新史	61. 9. 26
シンポジウム「月影式」土器について—資料編—	同上	"
博物館だよりNo.24	群馬県立歴史博物館	61. 9. 29
上総国分寺台発掘調査概報1983(抜刷)	近藤 敏	61.10. 1
東京の遺跡No.12	東京考古談話会	"
浦和市遺跡調査会報告書第62集	浦和市遺跡調査会	"
同上 第65集	同上	"
同上 第66集	同上	"
同上 第67集	同上	"
房総のあけぼのⅢ	千葉県教育委員会	61.10. 2
おとおねNo. 2	千葉県立大利根博物館	61.10. 3
埋蔵文化財愛知No. 6	(財)愛知県埋蔵文化財センター	61.10. 4
館報第15号	袖ヶ浦町郷土博物館	"
名古屋市博物館だより52	名古屋市博物館	"
千葉県立房総風土記の丘年報 9	千葉県立房総風土記の丘	"
昭和61年度発掘された遺跡展	同上	"
大阪府文化財情報 葦火 3号	(財)大阪市文化財協会	61.10. 6
神奈川県埋蔵文化財センター調査報告11	神奈川県立埋蔵文化財センター	61.10. 8
代官山遺跡調査の概要	同上	"
滋賀埋文ニュース第78号	滋賀県埋蔵文化財センター	61.10. 9
海老名本郷(Ⅰ)	田所 真	"
開館 5 周年記念特別企画展	長野市立博物館	61.10.11
佐堂(その 2) - II 他	(財)大阪文化財センター	"
亀井北(その 2)	同上	"
城北(その 1)	同上	"
亀井(その 2)	同上	"
久宝寺南(その 3)	同上	"
山賀(その 5、6)	同上	"
真福寺遺跡—調査の概要—	同上	"
小阪遺跡—調査の概要—	同上	"
丹上遺跡(その 1)発掘調査概要報告書	同上	"
丹上遺跡(その 2)—調査の概要—	同上	"
松原市観音寺遺跡第 2 次発掘調査概要	同上	"
河内の遺宝	同上	"
一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第 9 集—	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	61.10.14
港郷土資料館だより第 1 号	港区立港郷土資料館	61.10.17
港郷土資料館館報 4	同上	"
浜松市博物館だよりNo.17	浜松市博物館	61.10.18
年報 5	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"

書名	寄贈書	受入日
郷土博物館だより第15号	大田区立郷土博物館	61.10.18
博物館ノートNo.31	同上	"
同上 No.32	同上	"
同上 No.33	同上	"
特別展なつかしの音(図録)	同上	"
(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第24集	(財)北海道埋蔵文化財センター	61.10.20
同上 第25集	同上	"
同上 第26集	同上	"
同上 第27集	同上	"
同上 第28集	同上	"
同上 第29集	同上	"
同上 第30集	同上	"
同上 第31集	同上	"
同上 第32集	同上	"
同上 第33集	同上	"
同上 第34集	同上	"
東京大学総合研究資料館ニュース 8号	東京大学総合研究資料館	61.10.22
御意見有用1984(福井県立若狭歴史民俗資料館)	近藤 敏	"
御意見有用1985(福井県立若狭歴史民俗資料館)	同上	"
福井県立若狭歴史民俗資料館要覧	同上	"
特別展いま甦る丸木舟	同上	"
特別展タッチ・ザ・ニホンカイ	同上	"
第5回小さな展覧会	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	61.10.23
京都府埋蔵文化財情報第20号	同上	"
四街道市の文化財12号	四街道市教育委員会	61.10.24
四街道市吉国遺跡群発掘調査報告書	同上	"
郷土の文化財 4	(財)茂原市文化財センター	"
大阪府文化財情報第4号	(財)大阪府文化財協会	61.10.27
草津市墓ノ町遺跡発掘調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	"
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書-人工遺物編-(抜刷)	近藤 敏	61.10.28
岩手県立埋蔵文化財センター所報No.32	岩手県立埋蔵文化財センター	61.10.30
滋賀埋文ニュース第79号	滋賀県埋蔵文化財センター	"
福瀬遺跡・仏並遺跡-試掘調査事業報告書-	(財)大阪府埋蔵文化財協会	"
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査事業報告第2冊		
なりたNo.37	成田山霊光館	61.10.31
市原市文化祭20周年記念事業古代まつり	市原市文化課	61.11. 4
昭和61年度特別企画展甦る江戸時代Ⅱ	東京都港区立郷土資料館	61.11. 6
昭和61年度企画展-先土器時代の石器群-	千葉県立房総風土記の丘	61.11. 7
千葉県八日市場市宮下泥炭遺跡	八日市場市教育委員会	"
ほりのうちNo.11	市立市川考古博物館	60.11.10
昭和60年度市立市川考古博物館年報	同上	"
市川の縄文土器Ⅰ	同上	"
川崎遺跡現地説明会資料	田中新史	"
十里町遺跡現地説明資料	同上	"
第15回米原町ふれ愛文化祭	同上	"

書名	寄贈書	受入日
欠山式土器とその前後(1)	田中新史	61.11.10
同上 (2)	同上	"
長浜城跡発掘調査報告書	同上	"
はばたき第3号	(財)岩手県文化振興事業団	61.11.12
BE-PAL 11	近藤 敏	61.11.13
埋蔵文化財発掘調査概要報告書一赤野井湾遺跡一	(財)滋賀県文化財保護協会	"
同上	同上	"
同上	同上	"
大江湖底遺跡	同上	"
上川村文化財調査報告書2	新潟大学考古学研究室	61.11.14
六地山遺跡	同上	"
(財)元興寺文化財研究所通信No.25	(財)元興寺文化財研究所	61.11.17
ひろしまの遺跡第26号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	61.11.20
閑泉樋南遺跡発掘調査報告	山武考古学研究所	"
いわき市埋蔵文化財調査報告第14冊	(財)いわき市教育文化事業団	61.11.20
長野県埋蔵文化財ニュースNo.18	(財)長野県埋蔵文化財センター	61.11.22
文化財教室シリーズ〔87〕	(財)滋賀県文化財保護協会	"
同上〔88〕	同上	"
尼子南遺跡発掘調査概要I	同上	"
草津川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要	同上	"
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報6	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	61.11.26
研究紀要1986	同上	"
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第52集	同上	"
同上 第53集	同上	"
同上 第54集	同上	"
同上 第55集	同上	"
同上 第56集	同上	"
同上 第57集	同上	"
同上 第58集	同上	"
同上 第60集	同上	"
MOUSEION	立教大学	"
瀬戸内海歴史民俗資料館だより第19号	瀬戸内海歴史民俗資料館	61.11.29
同上 第22号	同上	"
瀬戸内海歴史民俗資料館年報第11号	同上	"
滋賀埋文ニュース第80号	滋賀県埋蔵文化財センター	61.12.1
法政大学多摩校地遺跡群I	法政大学	"
同上 II	同上	"
シンポジウム、房総の先土器時代	千葉県立房総風土記の丘	61.12.3
富山県埋蔵文化財センター所報第16号	富山県埋蔵文化財センター	"
昭和61年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	"
にくらごぼうやま	和光市教育委員会	"
民俗文化第277号	滋賀民俗学会	61.12.5
NOA No.5	鹿児島大学教養部考古学研究室	"
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第4集	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	"
同上 第48集	同上	"

書 名	寄 贈 書	受 入 日
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第49集	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	61.12. 5
同 上 第50集	同 上	"
同 上 第51集	同 上	"
同 上 第52集	同 上	"
同 上 第53集	同 上	"
賀茂学園都市開発整備事業地(西高地地区)内遺跡群 I	同 上	"
名古屋市博物館だより1986.12.1 53	名古屋市博物館	61.12. 8
埼玉考古学会30周年記念シンポジウム発表要旨	近藤 敏	"
久留里城址資料館年報7(昭和60年度)	君津市立久留里城址資料館	61.12.13
研究所報No.8	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	61.12.17
能島遺跡昭和60年度発掘調査概報	同 上	"
神明原・元宮川遺跡	同 上	"
静岡埋蔵文化財調査研究所調査報告第5集	同 上	"
同 上 第8集	同 上	"
同 上 第9集	同 上	"
柏市埋蔵文化財調査報告書12	千葉県柏市教育委員会	61.12.18
志那漁港工区発掘調査概要報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	"
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIII-2	同 上	"
京都府遺跡調査報告書第2冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	61.12.19
同 上 第4冊	同 上	"
同 上 第5冊	同 上	"
京都府遺跡調査概報第8冊	同 上	"
同 上 第9冊	同 上	"
同 上 第10冊	同 上	"
同 上 第11冊	同 上	"
同 上 第12冊	同 上	"
同 上 第13冊	同 上	"
同 上 第14冊	同 上	"
同 上 第15冊	同 上	"
同 上 第16冊	同 上	"
同 上 第17冊	同 上	"
同 上 第18冊	同 上	"
同 上 第19冊	同 上	"
博物館だよりNo.25	群馬県立歴史博物館	"
栗東町久徳家墓地遺跡発掘調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	"
埋蔵文化財発掘調査概要報告書一赤野井湾遺跡一	同 上	"
石田遺跡発掘調査報告書	同 上	"
アサヒグラフ1986.12	朝日新聞社	"
八王子市子安町子安3丁目遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	61.12.20
川崎市内における横穴墓群の調査	同 上	"
横浜市保土ヶ谷区花園遺跡発掘調査報告書	同 上	"
弥生文化の研究6	雄山閣出版編集部	61.12.22
とまこまい埋文だよりNo.6	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	"
苫小牧東部工業地帯の遺跡群 I	同 上	"
玉造谷津遺跡発掘調査報告書	佐原市教育委員会社会教育課	61.12.23

書名	寄贈書	受入日
佐原市丁子コバッチ遺跡調査報告書	佐原市教育委員会社会教育課	61.12.23
房総風土記の丘年報1	千葉県立房総風土記の丘	61.12.24
同 上 3	同 上	"
同 上 4	同 上	"
同 上 5	同 上	"
同 上 7	同 上	"
同 上 8	同 上	"
同 上 9	同 上	"
埋蔵文化財愛知No.7	(財)愛知県埋蔵文化財センター	61.12.25
奈良国立文化財研究所概要1986	米田耕之助	"
大阪市文化財情報葦火5号	(財)大阪市文化財協会	61.12.26
三重県斎宮跡調査事務所年報 1985	三重県斎宮跡調査事務所	61.12.26
研究連絡誌第18号	(財)千葉県文化財センター	61.12.27
文化財教室シリーズ(89)	(財)滋賀県文化財保護協会	"
同 上 (90)	同 上	"
人類学博物館紀要第6号	南山大学人類学博物館	62. 1. 6
同 上 第7号	同 上	"
南山大学人類学博物館館報第12号	同 上	"
同 上 第13号	同 上	"
同 上 第14号	同 上	"
同 上 第15号	同 上	"
同 上 第16号	同 上	"
同 上 第17号	同 上	"
同 上 第18号	同 上	"
同 上 第19号	同 上	"
同 上 第20号	同 上	"
同 上 第21号	同 上	"
岩手県立埋蔵文化財センター所報No.33	岩手県立埋蔵文化財センター	"
第5回中世土器研究会資料	田中清美	62. 1. 8
館報第16号	袖ヶ浦町郷土博物館	62. 1. 9
鳥取埋文ニュースNo.16	鳥取埋蔵文化財センター	"
滋賀埋文ニュース第81号	滋賀県埋蔵文化財センター	62. 1.12
貝塚つうしん 第14号	貝塚通信社	62. 1.14
同 上 第15号	同 上	"
横浜市東耕地遺跡調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	62. 1.19
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告14	神奈川県立埋蔵文化財センター	62. 1.19
千葉県勝浦市守谷長網横穴墓群の調査	井上裕一	"
石器時代の本県域における黒曜石の利用について	(財)千葉県文化財センター	"
放射化分析による黒曜石等の石器・石材の原産地の推定	同 上	"
房総歴史考古学研究第1集	房総歴史考古学研究会	62. 1.20
シンポジウム“房総における歴史時代土器の研究”	同 上	"
枚方市民俗文化財調査報告3	(財)枚方市文化財研究調査会	62. 1.22
枚方市文化財調査報告第19集	同 上	"
鳥取県教育文化財団報告書22	(財)鳥取県教育文化財団	62. 1.22
埼玉県立博物館要覧	近藤 敏	62. 1.23

書名	寄贈書	受入日
埼玉県立博物館展示概要	近藤 敏	62. 1. 23
埼玉県立博物館要覧昭和54年度	同 上	"
同 上 昭和55年度	同 上	"
大崩遺跡・竜角寺遺跡	千葉県立房総風土記の丘	62. 1. 24
印波 No.5	同 上	"
同上 No.6	同 上	"
同上 No.8	同 上	"
同上 No.9	同 上	"
同上 No.10	同 上	"
同上 臨時号	同 上	"
同上 No.12	同 上	"
同上 No.13	同 上	"
同上 No.17	同 上	"
同上 No.18	同 上	"
同上 No.19	同 上	"
同上 No.20	同 上	"
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第13集	山梨県埋蔵文化財センター	"
同 上 第15集	同 上	"
同 上 第18集	同 上	"
第4回企画展古代甲斐国と畿内王権(図録)	同 上	"
甦る古代の息吹き(絵葉書)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	62. 1. 28
荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡	同 上	"
下触牛伏遺跡	同 上	"
大津市大半遺跡発掘調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	"
茨城県立歴史館だよりNo.40	茨城県立歴史館	62. 1. 29
各務原市資料調査報告書第六号	各務原市教育委員会	"
同 上 第七号	同 上	"
古河市黒浜期貝塚群の貝類分析(抜刷)	小池裕子	62. 1. 30
脂肪酸の分類(抜刷)	同 上	"
Prehistoric Hunting Pressure and Paleobiomass: An Environmental Reconstruction and Archaeozoological Analysis of a Jomon Shellmound(抜刷)	同 上	"
名古屋市博物館だより54	名古屋市博物館	62. 2. 2
なりたNo.38	成田山靈光館	"
久保木竹窓	同 上	"
日野市埋蔵文化財発掘調査報告1	日野市教育委員会	"
同 上 2	同 上	"
日野市遺跡調査会年報'79III	同 上	"
滋賀埋文ニュース第82号	滋賀県埋蔵文化財センター	62. 2. 9
長野県埋蔵文化財ニュースNo.19	(財)長野県埋蔵文化財センター	"
おおとね Vol. 8 No.3	千葉県立大根博物館	"
京都府埋蔵文化財情報第21号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
とまこまい埋文だよりNo.7	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	"
柏原24遺跡	同 上	"
滋賀県の民謡	(財)滋賀県文化財保護協会	62. 2. 12

書名	寄贈書	受入日
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ-2	(財)滋賀県文化財保護協会	62. 2. 12
岩富漆谷津・太田宿	佐倉市教育委員会	62. 2. 14
財団法人印旛郡市文化財センター年報2	(財)印旛郡市文化財センター	〃
印旛郡市文化財センター研究紀要1	同上	〃
財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第2集	同上	〃
蜷塚遺跡Ⅴ・Ⅵ	浜松市博物館	62. 2. 18
富塚地蔵平1号墳発掘調査報告書	同上	〃
浜松市大山町本村遺跡発掘調査報告書	同上	〃
浜松市山の神遺跡発掘調査報告書-範囲確認調査-	同上	〃
下之城条里遺構の調査	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
三ツ寺I遺跡	同上	〃
三ツ木越戸遺跡	同上	〃
関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集	同上	〃
第15回企画展農家とくらし(図録)	長野市立博物館	62. 2. 20
盛岡市埋蔵文化財調査年報-昭和55~58年度-	盛岡市教育委員会	〃
盛岡城跡-昭和59年度発掘調査概報-	同上	〃
志波城跡-昭和60年度発掘調査概報-	同上	〃
郷土博物館だよりNo.24	調布市郷土博物館	62. 2. 23
築田寺南遺跡	町田市教育委員会	62. 2. 26
日本の古代8	中央公論社	〃
総合研究資料館ニュース1号	東京大学総合研究資料館	〃
わらびてNo.34	岩手県埋蔵文化財センター	62. 3. 2
滋賀埋文ニュース第83号	滋賀県埋蔵文化財センター	〃
葦火6号	(財)大阪市文化財協会	〃
口訳家例年中行事-上町大場家-	東京都世田谷区立郷土資料館	〃
松岡遺跡発掘調査報告書	館山市教育委員会	62. 3. 3
館山城跡鹿島堀発掘調査報告書	同上	〃
安房国分寺	同上	〃
館山城跡調査概報<第1次>	同上	〃
館山市文献史料所在目録第1集	同上	〃
同上 第2集	同上	〃
館山城跡調査概報<第3次>	同上	〃
ひろしまの遺跡第27号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	62. 3. 4
海隣寺於茶屋遺跡発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	〃
六拾部遺跡発掘調査報告書	同上	〃
坂戸遺跡	同上	〃
棒作遺跡発掘調査報告書	同上	〃
第3回東京の遺跡展	田中新史	〃
下切兎田古窯	同上	〃
鷲ノ宮遺跡群発掘調査報告書	同上	〃
大森奥山古窯跡群	同上	〃
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第104集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	62. 3. 5
同上 第105集	同上	〃
同上 第106集	同上	〃
同上 第107集	同上	〃

書名	寄贈書	受入日
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第108集 ^{分冊1(木版)}	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	62. 3. 5
同上 ^{分冊2(表写類版)}	同上	"
同上 第109集	同上	"
同上 第110集	同上	"
同上 第111集	同上	"
同上 第113集	同上	"
埋文えひめ第4号	(財)愛媛県埋蔵文化財センター	62. 3. 6
朝倉南甲遺跡	同上	"
道後今市遺跡	同上	"
宮前川遺跡	同上	"
八幡原遺跡の発掘	鈴木敏弘	62. 3. 11
東京都埋蔵文化財センター年報6	(財)東京都埋蔵文化財センター	"
浦和市立郷土博物館館報第29号	浦和市立郷土博物館	62. 3. 12
宮附遺跡発掘調査報告	千葉市教育委員会	"
千葉・上ノ台遺跡(4)図版編1	同上	"
同上 (5)図版編2	同上	"
千葉市文化財調査報告書第6集	同上	"
同上 第8集	同上	"
同上 第9集	同上	"
同上 第10編(本文編)	同上	"
仁戸名遺跡発掘調査報告書	同上	"
浜松市博物館だよりNo.17	浜松市博物館	62. 3. 17
港郷土資料館だより第10号	東京都港区立港郷土資料館	62. 3. 18
前山遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	"
山武考古学研究所年報No.4	同上	"
八王子城跡IX-1986年度確認調査報告書一 館報第17号	八王子市教育委員会	62. 3. 19
おとおね Vol. 8 No.4	袖ヶ浦町郷土博物館	62. 3. 23
埋蔵文化財愛知No.8	千葉県立大利根博物館	62. 3. 24
昭和61年度佐倉市埋蔵文化財緊急調査報告 遺跡・古墳発掘調査報告書III	(財)愛知県埋蔵文化財センター	62. 3. 26
同上 IV	佐倉市教育委員会	62. 3. 27
考古博物館だよりNo.11	茨城県教育委員会	"
中里遺跡確認調査報告	同上	"
昭和61年度市川東部遺跡群発掘調査報告	山梨県立考古博物館	62. 3. 28
白井町石造物調査報告書-第2集-	市川市教育委員会	"
金程向原遺跡I	同上	"
榛原町文化財調査報告第2集	白井町教育委員会	"
掘りおこされた浦和の歴史	日本大学文理学部史学研究室	62. 3. 30
浦和市遺跡調査会報告書第70集	榛原町教育委員会	"
同上 第71集	浦和市遺跡調査会	62. 3. 31
同上 第72集	同上	"
同上 第73集	同上	"
府中市埋蔵文化財調査報告第7集	同上	62. 3. 31
	府中市教育委員会	62. 3. 31

市原市文化財センター年報

(昭和61年度)

昭和63年3月31日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290-03 千葉県市原市馬立817
TEL 0436(95)2755

印刷 三陽工業(株)市原支店
〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348